よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などは
ホームページをご活用ください。 **http://www.sony.co.jp/support**

使い方相談窓口

フリーダイヤル……………… 0120-333-020
携帯電話・PHS・一部のIP電話‥ 0466-31-2511

修理相談窓口

フリーダイヤル……………… 0120-222-330
携帯電話・PHS・一部のIP電話‥ 0466-31-2531
※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

左記番号へ接続後、
最初のガイダンスが
流れている間に
「306」+「#」
を押してください。
直接、担当窓口へ
おつなぎします。

FAX（共通） 0120-333-389

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

Printed in China

SONY

4-187-068-**04**(1)

MULTIMEDIA AUDIO SYSTEM

取扱説明書

CMT-L7D

お買い上げいただきありがとうございます。



電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。**お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。










 安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品は間違った使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故につながることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。



安全のための注意事項を守る

以下の注意事項をよくお読みください。

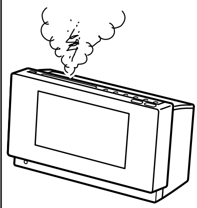
定期的に点検する

設置時や1年に1度は、電源コードに傷みがないか、コンセントと電源プラグの間にほこりがたまっていないか、電源プラグがしっかり差し込まれているか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、キャビネットや電源コードなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーの相談窓口に修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら



1. **電源を切る。**
2. **電源プラグをコンセントから抜く。**
3. **お買い上げ店またはソニーの相談窓口に修理を依頼する。**

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。



この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。



この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなどの人身事故につながることがあります。



この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号


火災


感電


指のケガに注意

行為を禁止する記号


禁止


分解禁止


接触禁止


ぬれ手禁止

行為を指示する記号


指示


プラグをコンセントから抜く

目次

次のページにつづく

その他







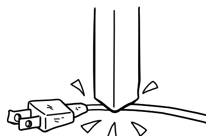
下記の注意事項を守らないと**火災・感電**により**死亡**や**大けが**の原因となります。

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。

- 設置時に、製品と壁や棚との間にはさみ込んだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけない。加熱しない。
- 移動させるときは、電源プラグを抜く。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

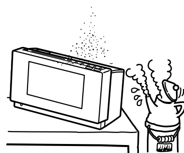
万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーの相談窓口に交換をご依頼ください。





湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所や、直射日光のあたる場所には置かない

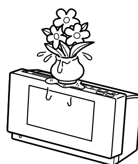
上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となることがあります。特に風呂場などでは絶対に使用しないでください。





内部に水や異物が入らないようにする

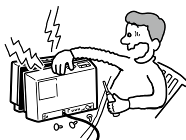
水や異物が入ると火災や感電の原因となります。本機の上に花瓶など水の入ったものを置かないでください。
万一、水や異物が入ったときは、すぐに本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げ店またはソニーの相談窓口にご相談ください。





キャビネットを開けたり、分解や改造をしない

火災や感電、けがの原因となることがあります。内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーの相談窓口にご依頼ください。







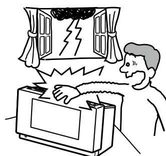




下記の注意事項を守らないと**火災・感電**により**死亡**や**大けが**の原因となります。

雷が鳴りだしたら、アンテナ線や電源プラグに触れない

本機やアンテナ線、電源プラグなどに触れると感電の原因となります。

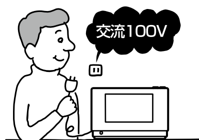




接触禁止

本機を日本国外で使わない

交流100Vの電源でお使いください。海外など、異なる電源電圧の地域で使用すると、火災・感電の原因となります。

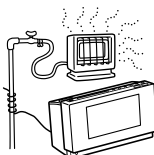




指示

ガス管にアンテナ線をつながない

火災や爆発の原因となります。





禁止



下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺の**家財に損害**を与えたりすることがあります。

ぬれた手で電源プラグにさわらない

感電の原因となることがあります。

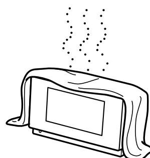




ぬれ手禁止

風通しの悪い所に置いたり、通風孔をふさいだりしない

布をかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上または壁や家具に密接して置いて、通風孔をふさぐなど、自然放熱の妨げになるようなことはしないでください。過熱して火災や感電の原因となることがあります。





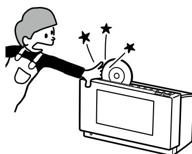
禁止



下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺の**家財に損害**を与えたりすることがあります。

幼児の手の届かない場所に置く

ディスクの挿入口などに手をはさまれ、けがの原因となることがあります。お子さまがさわらぬようにご注意ください。





指のケガに注意

大音量で長時間つづけて聞かない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。特にヘッドホンで聞くときにご注意ください。

呼びかけられたら気がつくくらいの音量で聞きましょう。





禁止

はじめからボリュームを上げすぎない

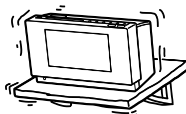
突然大きな音が出て耳をいためることがあります。ボリュームは徐々に上げましょう。特に、雑音の少ないデジタル機器をヘッドホンで聞くときにはご注意ください。



禁止

安定した場所に置く

ぐらついた台の上や傾いたところなどに置くと、製品が落ちてけがの原因となることがあります。また、置き場所、取り付け場所の強度も充分に確認してください。





禁止

電源プラグは抜き差ししやすいコンセントに接続する

異常が起きた場合にプラグをコンセントから抜いて、完全に電源が切れるように、電源プラグは容易に手の届くコンセントにつないでください。

通常、本機の電源スイッチを切っただけでは、完全に電源から切り離されません。



指示



下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

コード類は正しく配置する

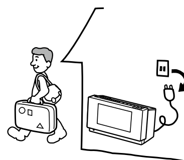
本機に取り付ける電源コードやAVケーブルは、足にひっかけると機器の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。充分に注意して接続、配置してください。





長期間使わないときは、電源プラグを抜く

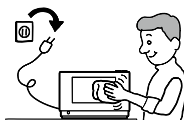
長期間使用しないときは安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。絶縁劣化、漏電などにより火災の原因となることがあります。





お手入れの際、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。





電池についての安全上のご注意

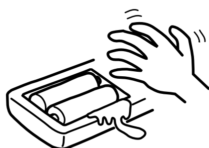
液漏れ・破裂・発熱・発火・誤飲による**大けが**や**失明**を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠危険

電池の液が漏れたときは

素手で液をさわらない


接触禁止



電池の液が目に入ったり、身体や衣服につくと、失明やけが、皮膚の炎症の原因となることがあります。液の化学変化により、数時間たってから症状が現れることもあります。

必ず次の処理をする


指示



- 液が目に入ったときは、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。
- 液が身体や衣服についたときは、すぐにきれいな水で充分洗い流してください。皮膚の炎症やけがの症状があるときは、医師に相談してください。

⚠警告

電池は乳幼児の手の届かない所に置く

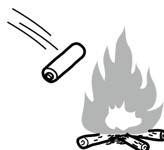

禁止



電池は飲み込むと、窒息や胃などへの障害の原因となることがあります。
万一、飲み込んだときは、ただちに医師に相談してください。

電池を火の中に入れない、加熱・分解・改造・充電しない、水で濡らさない

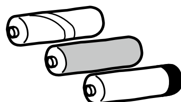

禁止



破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

指定以外の電池を使わない、新しい電池と使用した電池または種類の違う電池を混ぜて使わない

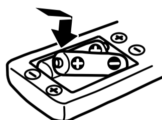




電池の性能の違いにより、破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

＋と－の向きを正しく入れる

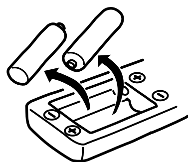




＋と－を逆に入れると、ショートして電池が発熱や破裂をしたり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。
機器の表示に合わせて、正しく入れてください。

使い切ったときや、長時間使用しないときは、電池を取り出す





電池を入れたままにしておくと、過放電により液が漏れ、けがややけどの原因となることがあります。

再生できるディスクについて

ディスクの種類	ディスクのロゴ	対象となるディスク	本書での記号
DVDビデオ	DVD VIDEO DVD R R4.7 / DVD RW RW DVD+R / RW DVD+ReWritable RW DVD+R DL	• DVDビデオ • DVDビデオフォーマットで記録されたDVD-R/DVD-RW、ビデオモードで記録されたDVD-R/DVD-RW • DVDビデオフォーマットで記録されたDVD+R/DVD+RW	DVD-V
VR (ビデオレコーディング) モード	DVD R R4.7 / DVD RW	• VRモードで記録されたDVD-R/DVD-RW（DVD-R DLディスクは除く）* * CPRM対応のDVD-R/DVD-RWディスクに録画した「1回だけ録画可能」な番組も再生できます。CPRM (Content Protection for Recordable Media)とは、「1回だけ録画可能」な番組に対する著作権保護技術です。	DVD-VR
ビデオCD	COMPACT disc DIGITAL VIDEO	• ビデオCD (バージョン1.1/2.0) • スーパーVCD • ビデオCDフォーマットまたはスーパービデオCDフォーマットで記録されたCD-R/CD-RW/CD-ROM	VIDEO CD
CD	COMPACT disc DIGITAL AUDIO	• 音楽CD • 音楽用CDフォーマットで記録されたCD-R/CD-RW	CD

次のページにつづく

ディスクの種類	ディスクのロゴ	対象となるディスク	本書での記号
データCD		• MP3オーディオファイルまたはJPEG画像ファイルが記録されたCD-R/CD-RW/CD-ROMで、ISO9660レベル1/レベル2、Joliet、Joliet拡張規格のいずれかの論理フォーマットに準拠したディスク	DATA CD
データDVD		• MP3オーディオファイルまたはJPEG画像ファイルが記録されたDVD-ROM/DVD-R/DVD-RW/DVD+R/DVD+RWで、UDF (Universal Disk Format)規格の論理フォーマットに準拠したディスク	DATA DVD

- MP3ファイル：MP3（MPEG 1 Audio Layer-3）は、ISO（国際標準化機構）とISOの下部組織であるMPEG (Motion Picture Experts Group)、IEC（国際電気標準会議）によって規定された音声データのデジタル圧縮規格のひとつ。本機では、MPEG 1 Audio Layer-3に準拠したMP3ファイルを再生することができます。
- JPEG画像ファイル：JEITA（電子情報技術産業協会）が制定したDCF規格（デジタルカメラのファイルシステム規格）に準拠したJPEG画像ファイルを再生することができます。
- ISO9660：国際標準化機構（ISO）が策定したCD-ROMの論理フォーマットです。

再生できないディスク、データについて

- フォトCDフォーマットで記録されたCD-ROM
- MP3 PRO形式で作成したオーディオファイルを記録したデータCD
- CD EXTRAディスクのコンピュータ用データ部分[1)]
- ミックスモードCDのコンピュータ用データ部分[2)]
- スーパーオーディオCD
- DVDオーディオ
- DVD-RAM
- 本機の映像方式（NTSC）と異なる映像方式（PALなど）で記録されたディスク
- ブルーレイディスク（BD）
- 円形以外の特殊な形状（カード型、ハート型、星形など）をしたディスク
- 紙やシールの貼られたディスク
- セロハンテープやレンタルディスクのラベルなどの糊がはみ出したり、はがした跡のあるディスク
- インクジェットプリンターによる盤面印刷を行ったディスクで、ラベル面のインクが乾いていないディスク

1) CD EXTRAフォーマットは、マルチセッションCDの一種で、第1 セッションに音声データ（CD-DA)を、第2 セッションにコンピュータ用のデータを収録しています。

2) ミックスモードCDは、通常の音楽CDと同じくシングルセッション方式（ひとつのセッション）で、第1トラックにコンピュータ用データを、第2トラック以降に音声データを収録しています。

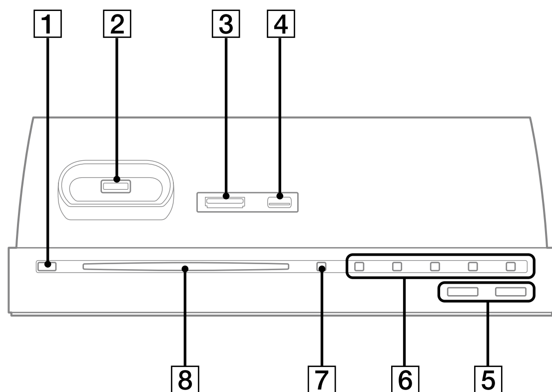
本機で再生できるDVDの地域番号（リージョンコード）、ディスクご利用時のその他のご注意については、82ページをご覧ください。

各部の名前と働き

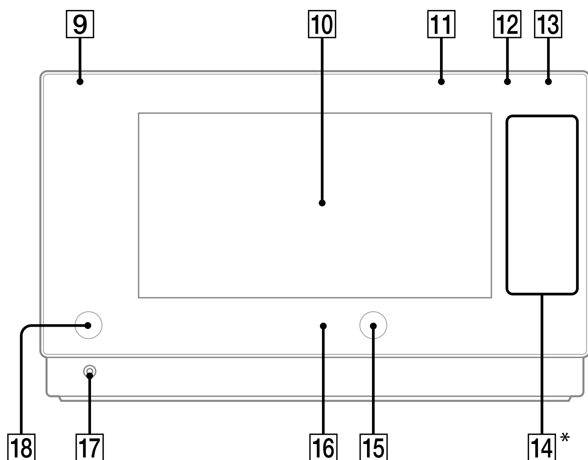
本書では、リモコンのボタンを使った操作説明を主体にしています。リモコンと同じ名前の本体のボタンは、同じ働きをします。

本体

上面



前面



* タッチセンサー式ボタン

1

I/⏻（電源）ボタン
本機の電源を入/切します。

2

WM-PORTコネクター（ウォークマン接続端子）(29、59ページ)
別売りの"ウォークマン"を接続します。

3

メモリーカードスロット
別売りの"メモリースティック"やSDメモリーカードを挿入して、オーディオファイル、ビデオファイル、画像ファイルを再生します。

4

⭠ USBメモリー（USB端子）
別売りのUSB機器を接続して、オーディオファイル、ビデオファイル、画像ファイルを再生します。

5

音量 +/–ボタン
音量を調節します。

6

►（再生）ボタン
再生を開始します。

❚❚（一時停止）ボタン
再生を一時停止します。

■（停止）ボタン
再生を停止します。

選局 +/–ボタン
ラジオの放送局の周波数を合わせます。

⏮/⏭ボタン
曲やファイル、チャプターなどの頭出しをします。

7

⏏（イジェクト）ボタン
ディスクを取り出します。

8

ディスクスロット

9

オン/スタンバイランプ
電源オン時は緑色、電源オフ時は赤色にランプが点灯します。

10

液晶ディスプレイ

11

ウォークマン充電ランプ（60ページ）
"ウォークマン"への給電中は橙色に点灯し、給電していないときは消灯します。過電流が検出されたときは、ランプが点滅します（87、89ページ）。

12

タイマーランプ
再生タイマーをセットすると、橙色にランプが点灯します。

次のページにつづく

13

オートスタンバイランプ
本機のオートスタンバイ機能によってスタンバイ状態(節電モード)になると、橙色にランプが点灯します。
オートスタンバイ機能は、お好みでオン/オフの設定が選べます。詳しくは、99ページをご覧ください。

14*

ホームボタン(20ページ)
ホームメニューを表示します。

オプションボタン(22ページ)
ファンクションに応じたオプション設定メニューを表示します。

戻るボタン(21、22、43、68ページ)
直前のメニューや画面に戻ったり、操作前の状態に戻すことができます。

↑/↓/←/→ボタン
メニュー項目を選択します。

決定ボタン
設定や操作を確定します。

15

照度センサー

16

ソニーロゴ
ソニーロゴの明るさは(「イルミネーション」)、お好みで選ぶことができます。詳しくは、79ページをご覧ください。

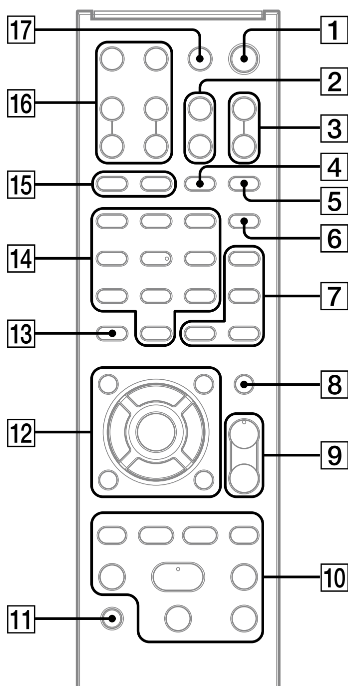
17

🎧(ヘッドホン端子)

18

リモコン受光部

リモコン



1

電源ボタン
本機の電源を入/切します。

2

画面表示ボタン（22、26ページ）
コントロールメニュー画面からCD再生画面に切り換えます（「CD/DVD」ファンクション使用時のみ）。
DVDビデオやビデオファイル、スライドショーの再生中に押すと、ステイタスバーを一時的に表示することができます。

時間/テキストボタン（75、76ページ）
再生中に時間情報やテキスト情報を表示します。

3

+/–ボタン（35、68ページ）
フォルダーを選択します。

4

チューナー /バンドボタン
ファンクションを「チューナー」に切り換えます。
FM、AMの切り換えを行います。

5

ピクチャーナビボタン（42ページ）
データCDやデータDVDに記録された複数の画像をサムネイル表示（一覧表示）します（「CD/DVD」ファンクション使用時）。

6

音声ボタン（37、38ページ）
再生中に音声や音声記録方式を選択します。

次のページにつづく

7

字幕/ダイレクト選局ボタン（36、58ページ）
DVDビデオの字幕言語を切り換えます。
ダイレクト選局モードにモードを切り換えます。

アングルボタン（36ページ）
マルチアングル対応のDVDビデオの再生中に、アングルを切り換えます。

DVDトップメニュー /DVDメニューボタン（26、35、37ページ）
複数のタイトル（映像や曲）が記録されたDVDを再生するときに、ディスクに記録されたタイトル画面を表示してタイトルを選ぶことができます。
字幕や音声の言語など、DVDメニューを選ぶことができます。
データCDやデータDVDの再生時には、フォルダーリストやトラックリストの表示/非表示の操作ができます。

8

消音ボタン
消音します。消音をキャンセルするときは、再度消音ボタンを押すか、音量＋ボタンで音量を上げてください。

9

音量 +/–[1]ボタン
音量を調節します。

10

+/–（選局）ボタン
ラジオの放送局の周波数を合わせます。

⏮/⏭ボタン
曲やファイル、チャプターなどの頭出しをします。

◀◀/▶▶ボタン
曲やファイル、チャプターなどの早戻しや早送りをします。

◀I/I▶（スロー再生）ボタン
スロー再生をします。

◀IIステップ/ステップII▶（コマ送り）ボタン（35ページ）
一時停止中に逆方向、順方向にコマ送りします。

←•/•→（戻す/進める）ボタン（36ページ）
再生中に押すことで、シーンを戻したり、先のシーンに進めて再生します。

▶[1]（再生）ボタン
再生を開始します。

II（一時停止）ボタン
再生を一時停止します。

■（停止）ボタン
再生を停止します。

11

サウンドフィールドボタン（70ページ）
サラウンド効果のサウンドフィールド（音場効果）を選択します。

12

ホームボタン(20ページ)

ホームメニューを表示します。

戻るボタン(21、22、43、68ページ)

直前のメニューや画面に戻ったり、操作前の状態に戻すことができます。

↑/↓/←/→ボタン

メニュー項目を選択します。

決定ボタン

設定や操作を確定します。

画面表示ボタン(25、26、32、106ページ)

コントロールメニュー画面の表示/非表示の操作をします(コントロールメニューは、「CD/DVD」ファンクション使用時のみの機能です)。

オプションボタン(22ページ)

ファンクションに応じたオプション設定メニューを表示します。

13

クリアボタン(41、47、48ページ)

操作をキャンセルして、通常の状態や元の状態に戻します。

プログラムしたトラックを消去します。

14

数字ボタン[1]

再生対象(トラック、チャプター、ファイルなど)をトラック番号で選択します。

数値を入力します。

15

M.BASS(メガベース)ボタン(70ページ)

サウンドの低音域を強調します。

イコライザボタン(70ページ)

あらかじめ本機に登録されているイコライザ設定を選択し、音質を調整します。

16

テレビ入力切換ボタン[2]

テレビの入力を切り換えます。

テレビ音量+/–ボタン[2]

テレビの音量を調節します。

テレビ電源ボタン[2]

テレビの電源を入/切します。

テレビチャンネル+/–ボタン[2]

テレビのチャンネルを切り換えます。

17

スリープボタン(73ページ)

スリープタイマーを設定します。

[1] 数字ボタンの5、音量ボタンの+、►ボタンには突起がついています。本機を操作するときの参考にしてください。

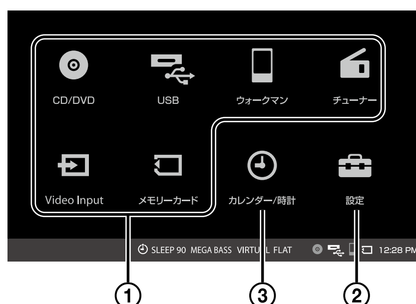
[2] 本機に接続したソニー製テレビの操作に使用します。詳しくは、"ソニー製テレビをコントロールする" (31ページ)をご覧ください。

ホームメニューとコントロールメニューの基本操作

ホームメニューによる操作

■ ホームメニュー

“ホームメニュー”は、本機の基本操作画面です。ホームメニューからファンクションを選んだり、「設定」画面を表示したり、カレンダーや時計機能を呼び出すことができます。ホームメニューは、ホームボタンを押すことでいつでも表示することができます。



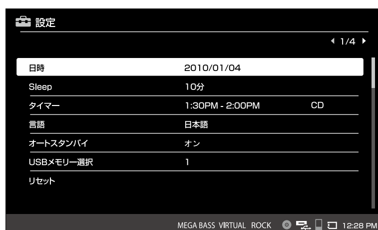
① ファンクション
② 「設定」：21ページ参照。
③ カレンダー /時計：カレンダーまたは時計を表示します。詳しくは、“カレンダー /時計機能を使う”(77ページ)をご覧ください。

[使用するボタン]

- ↑/↓/←/→：選択するアイコンにフォーカスをあてる。
- 決定：フォーカスをあてたアイコンを確定し、ファンクションを選択する。

■ 設定メニュー

「設定」メニューは、さまざまな設定を行うためのメニューで4つの画面から構成されています。





[使用するボタン]

- ➡/⬅：「設定」メニューの次の画面／元の画面を表示する。
- ⬆/⬇：使用する設定項目を選択する。
- 決定：選択した設定項目を確定し、設定画面を表示する。
- ↶ 戻る：操作をキャンセルして元の画面、元の状態に戻る。

[設定ボックスでの操作]

- ⬆/⬇/⬅/➡：設定ボックスにフォーカスを移動する。
- 決定：フォーカスした設定ボックスを確定し、ポップアップ項目から設定を選ぶ。ポップアップ項目の選択は⬆/⬇ボタンで行い、選択確定は決定ボタンで行います。
- ↶ 戻る：操作をキャンセルして元の状態に戻る。

次のページにつづく ⟶

■ オプションメニュー

本機のいずれかのファンクションの使用中にオプションボタンを押すと、使用中のファンクションに応じたオプションメニューが表示されます。表示されるオプションメニューは、ファンクションごとに異なります。



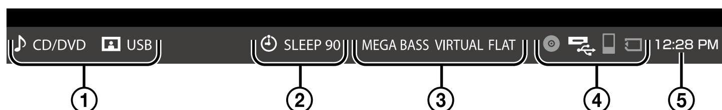
[使用するボタン]

- オプション：ファンクション使用時にオプションメニューを呼び出す。
- ↑/↓：フォーカスを上下に移動する。
- 決定：フォーカスしたメニューを確定する。サブメニューのあるメニュー項目では、決定ボタンを押すと、フォーカスがサブメニューの一番上の項目に移動します。
- 戻る：操作をキャンセルして元の状態に戻る。オプションメニュー、サブメニューを閉じる。

ちょっと一言

「画面オフ」、「Sleep」、「タイマー」、「サウンド設定」の項目は、どのファンクションを使っているときでも、オプションメニューから設定できます。

■ ステイタスバー



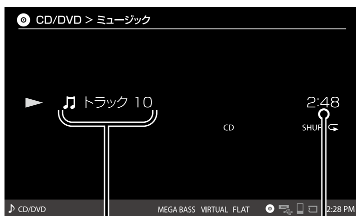
① 再生中の音源と画像ファイルの再生元
② 再生タイマー、スリープタイマー設定時に表示
③ MEGA BASS、サラウンド、イコライザの設定
④ 機器の接続の状態
⑤ 時計

ちょっと一言

DVDビデオやビデオファイル、スライドショーなどの映像の再生中は、画面表示ボタンを押すことで、ステイタスバーを一時的に表示することができます。

■ 再生画面

• CD-DAディスク、MP3ディスク



A　B

• USB機器、メモリーカード



C　D　E　F

G　H　I　J　K　L

TAG　MP3　CD　PGM　SHUF　1

A 曲情報

- 曲名、アルバム番号（MP3ディスクのみ）。詳しくは、“CD再生画面で情報を確認する”（76ページ）をご覧ください。

B 時間情報

- “CD再生画面で情報を確認する”（76ページ）をご覧ください。

C アルバムアートワーク（表示可能な場合のみ）

D ID3タグ情報（表示可能な場合のみ）

- 再生中のファイル名（♫）/アルバム名（💿）/アーティスト名（👤）/現在のフォルダー（📁）。

E プログレスバー

F オーディオフォーマット（USB機器、メモリーカードのみ）。

G ID3タグ情報の表示が可能な場合に点灯（MP3ディスクのみ）。

H 再生中のディスクがMP3ディスクの場合に点灯。

I 再生中のディスクが音楽CD（CD-DA）、データCD（CD-R/CD-RW）の場合に点灯。

J プログラム再生時に点灯（音楽CDまたはビデオCDのみ）。

次のページにつづく

K プレイモード･インジケーター

- CD-DAディスク/MP3ディスクの場合：表示なし（通常再生）/SHUF（シャッフル再生）
- USB機器/メモリーカードの場合：表示なし（通常再生）/SHUF（シャッフル再生）/フォルダー SHUF（フォルダーシャッフル再生）

L リピートモード･インジケーター

- CD-DAディスクの場合：表示なし（リピート再生なし）/リピート（全曲リピート）/リピート 1（1曲リピート）
- MP3ディスクの場合：表示なし（リピート再生なし）/リピート（ディスクまたは選択フォルダーの全曲リピート）/リピート 1（1曲リピート）
- USB機器/メモリーカードの場合：表示なし（リピート再生なし）/リピート（全曲リピート）/リピート 1（1曲リピート）

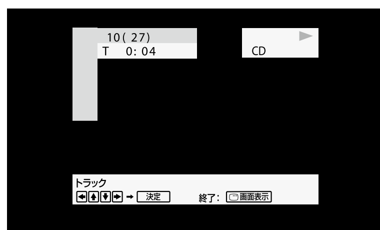
ご注意

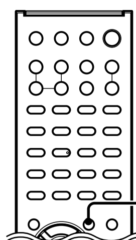
再生するオーディオファイルによっては、アルバムアートワークが表示されないことがあります。

コントロールメニューによる操作（CD/DVDファンクションのみ）

コントロールメニューは、CD/DVDファンクションのために用意された設定画面です。ディスクのプレイモードやリピートモードの設定、DVDビデオの視聴に関する設定など、再生するディスクに関連するさまざまな設定を行うことができます。コントロールメニュー画面は、リモコンの画面表示で表示します。詳しくは、本書の「ディスク」の章および "コントロールメニュー画面の見かた（CD/DVDファンクションのみ）"（106ページ）をご覧ください。

■ コントロールメニュー画面



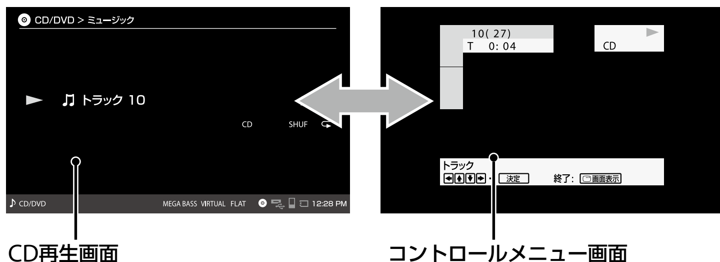


コントロールメニュー画面は、リモコンの画面表示ボタンで呼び出します。

CD再生画面からコントロールメニュー画面に切り換えるには

CD再生画面が表示されているときは、画面表示ボタンを押してコントロールメニュー表示モードにし、もう一度画面表示ボタンを押すことでコントロールメニュー画面を表示することができます（CD再生画面が表示されていないときは、画面表示ボタンを一度押すだけでコントロールメニュー画面が表示されます）。

CD再生画面からコントロールメニュー画面に切り換えた後、再びCD再生画面を表示したいときは、画面表示ボタンを押します。

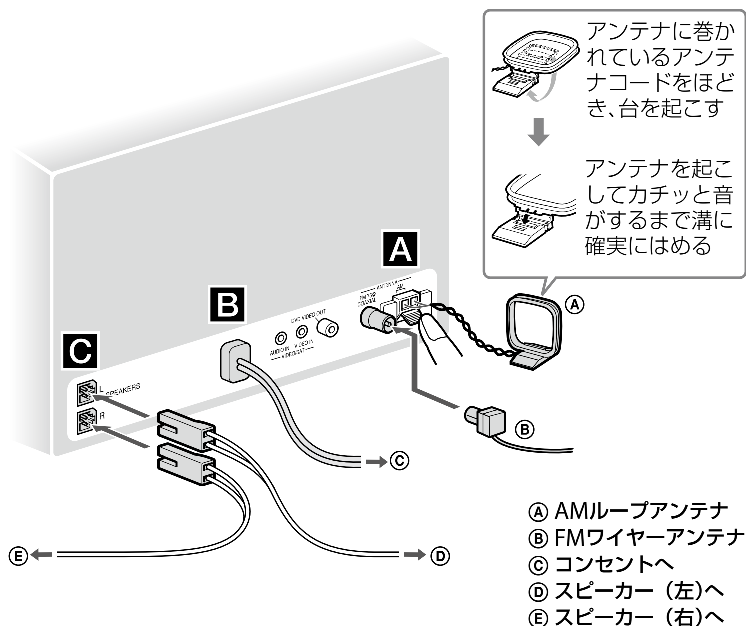


CD再生画面　　コントロールメニュー画面

ちょっと一言

- 次のボタン操作でもCD再生画面からコントロールメニュー画面に切り換えることができます。
  - DVDメニューボタンを押し、画面表示ボタンを繰り返し押す。
  - ↑/↓/←/→ボタンのいずれかを押し、画面表示ボタンを繰り返し押す。
- MP3ディスクを再生しているときにDVDメニューボタンを繰り返し押すと、「フォルダー一覧」または「トラック一覧」の画面を呼び出すことができます。

接続する



A アンテナ（ANTENNA）

アンテナを接続しないとラジオ放送を受信できません。
アンテナは受信状態の良い場所や方向を探して設置してください。
雑音の原因になるため、AMループアンテナは本体やスピーカーコード、他のAV機器から離してください。
FMワイヤーアンテナは束ねたまま使わないでください。また、FMワイヤーアンテナの設置の際は、先端をテープなどで固定してください。

B 電源

すべての機器を接続したあと、本機の電源コードをコンセントにつないでください。

C スピーカー（SPEAKERS）

スピーカーコードのコネクターをスピーカー端子に奥までしっかりと挿し込んでください。

次のページにつづく

オートデモ機能をオフにするには

お買い上げ後、初めて電源プラグをコンセントへ差し込むとオートデモがスタートします。次の手順でオートデモ機能をオフにしてください。

1 ホームメニューの「設定」を選び、決定ボタンを押す。

2 「デモンストレーション」を選び、決定ボタンを押す。
設定画面が表示されます。

3 ↑/↓ボタンで「オフ」を選び、決定ボタンを押す。

スタンバイモード時の節電とオートデモ機能について

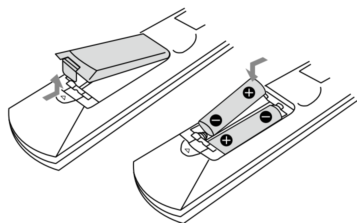
本機は、電源ボタン（本体ではI/⏻ボタン）を押して電源を切ると、自動的に節電モード（「パワー・セービングモード」）に移行し消費電力を抑えるよう設計されていますが、オートデモ機能が有効になっていると、パワー・セービングモードに移行できません。節電モードをご利用いただく場合は、オードデモ機能をオフにしてください。

ご注意

本機は、「オートスタンバイ」の設定（99ページ）を有効にしても、オートデモ機能の設定が有効の場合、パワー・セービングモードに移行できません。

リモコンに電池を入れる

⊕と⊖の向きを合わせて、リモコンに単3形乾電池（R6、付属）2個を入れます。イラストのように⊖極側から入れます。



ご注意

- 電池の使いかたを誤ると、液漏れや破裂のおそれがあります。次のことを必ず守ってください。
  - ⊕と⊖の向きを正しく入れてください。
  - 新しい電池と使った電池、または種類の違う電池を混ぜて使わないでください。
  - 電池は充電しないでください。
  - 長い間リモコンを使わないときは、電池を取り出してください。
  - 液漏れしたときは、電池入れについた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。
- リモコンを使うときは、リモコン受光部に直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようにしてください。リモコンで操作できないことがあります。

ちょっと一言

電池の交換時期は約6か月です。リモコンを本体に近づけないと操作しづらくなったら、2個とも新しい電池に交換してください。

“ウォークマン”を本機に接続するには

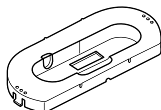
本機のWM-PORTに、付属の“ウォークマン”用アタッチメント（タイプAまたはタイプB）を取り付けて、WM-PORT搭載の“ウォークマン”を接続して使うことができます。

“ウォークマン”用アタッチメント対応機種

“ウォークマン”を本機に接続する際は、お使いの“ウォークマン”に対応するアタッチメントをWM-PORTに装着してください。
アタッチメントのタイプは、それぞれのアタッチメントの裏側の刻印（AまたはB）で確認できます。
なお、以下に記載のない新機種を本機でご利用の場合は、“ウォークマン”に付属のアタッチメントをお使いください。

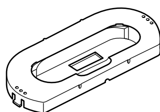
タイプAアタッチメントと対応シリーズ

NW-A820シリーズ、NW-S740Kシリーズ、NW-S740シリーズ、NW-S730FKシリーズ、NW-S730Fシリーズ、NW-S640Kシリーズ、NW-S640シリーズ、NW-S630FKシリーズ、NW-S630Fシリーズ



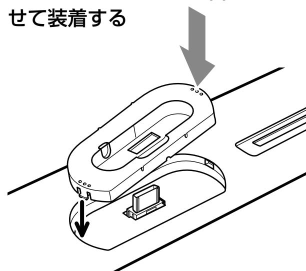
タイプBアタッチメントと対応シリーズ

NW-X1000シリーズ、NW-A910シリーズ



“ウォークマン”用アタッチメントを装着する。

以下のアタッチメント装着の手順は、タイプAのアタッチメントを例としています。

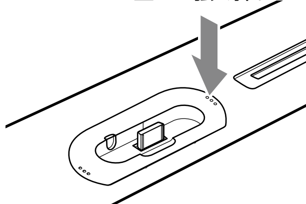


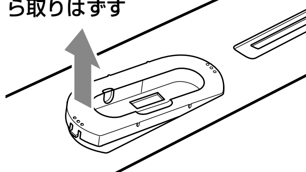
準備

次のページにつづく

アタッチメントの取りはずし方について

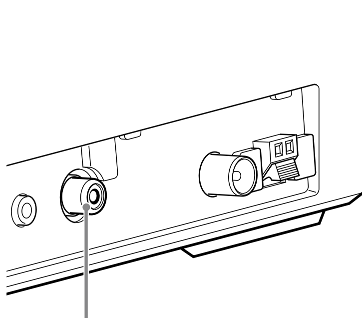
アタッチメントの「◦◦◦」部分(左端または右端)を上から押して、反対側の端を浮き上がらせて取りはずしてください。
以下のアタッチメント取りはずしの手順は、タイプAのアタッチメントを例としています。





テレビをつなぐ

テレビの映像入力端子と本機の映像出力端子(DVD VIDEO OUT端子)を、市販の映像コードを使ってつなぎます。



ご注意

テレビへの映像出力は、DVDビデオや画像データが記録されたデータCDやデータDVDを、「CD/DVD」ファンクションで再生する場合のみとなります。

ソニー製テレビをコントロールする

以下のボタンでテレビの操作ができます。

できること	押すボタン
テレビの電源を入/切する。	テレビ電源
テレビの入力を切り換える。	テレビ入力切換
テレビのチャンネルを切り換える。	テレビチャンネル+/–
テレビの音量を調節する。	テレビ音量+/–

基本設定をする

本機を使うために必要な基本設定を行います。

「CD/DVD」ファンクションのクイック設定

本機につないだテレビのテレビ画面の縦横比を設定します。手順3でクリアボタンを押すと、ガイドメッセージが消え、クイック設定をスキップしてただちに本機を使用することができます。クイック設定の設定項目は、コントロールメニューの「設定」画面でいつでも設定することができます。

1 テレビの電源を入れ、映像が映るようにテレビ入力を切り換える。*

* 本機の液晶ディスプレイの表示でクイック設定を進める場合は、この手順は必要ありません。

2 電源ボタン（本体ではI/⏻ボタン）を押し、本機の電源を入れる。

3 ホームメニューの「CD/DVD」を選び、決定ボタンを押す。

ガイドメッセージが画面に表示されます。

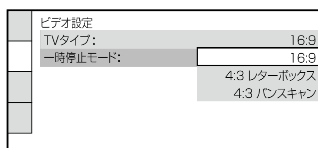
ご注意

ディスクを入れないで操作してください。ディスクが入った状態で操作すると、ガイドメッセージが表示されません。

次のページにつづく

4 **決定ボタンを押す。**

「ビデオ設定」画面が表示されます。



5 **↑/↓ボタンで、本機につないだテレビの画面に合った縦横比を選ぶ。**

4:3スクリーンタイプのテレビをお使いの場合：

「4:3レターボックス」または「4:3パンスキャン」を選びます（54、55ページ）。

ワイドスクリーンタイプのテレビ、またはワイドスクリーンモードを搭載する4:3スクリーンタイプのテレビをお使いの場合：

「16:9」を選びます（54ページ）。

6 **決定ボタンを押す。**

クイック設定の設定作業は完了です。設定を変更したいときは、コントロールメニューの「設定」画面から設定してください。詳しくは、"「設定」画面を使う"をご覧ください（53ページ）。

クイック設定をやめるには

画面表示ボタンを押してください。

クイック設定の画面を呼び出すには

1 **ディスクの再生が停止していることを確認して、画面表示ボタンを押す。**

コントロールメニュー画面が表示されます。

2 **↑/↓ボタンで（「設定」）を選び、決定ボタンを押す。**

3 **↑/↓ボタンで「クイック」を選び、決定ボタンを押す。**

ご注意

ガイドメッセージは、本機をお買い上げ後初めて電源を入れたとき、または「リセット」（99ページ）を実行したときに画面下部に表示されます。

ホームメニューの表示言語を切り換える

ホームメニューやオプションメニューの表示言語は、日本語または英語で表示することができます。お買い上げ時の初期設定は、「日本語」です。

1 **ホームメニューの「設定」を選び、決定ボタンを押す。**

2 **↑/↓ボタンで「言語」を選び、決定ボタンを押す。**

設定画面が表示されます。

3 **↑/↓ボタンで「English」または「日本語」を選び、決定ボタンを押す。**



時計を合わせる

1 **ホームメニューの「設定」を選び、決定ボタンを押す。**

2 **↑/↓ボタンで「日時」を選び、決定ボタンを押す。**

設定画面が表示されます。

3 **時刻と日付を設定する。**



「12/24時間表示選択」

「12 時間」または「24 時間」の時刻表示形式を選択します。「12 時間」の書式では、「AM」または「PM」が選択できます。

「日付」

「年」で"年"、「月」で"月"、「日」で"日"をセットします。

「時間」

「時」で"時間"、「分」で"分"をセットします。「12 時間」を選んだときは、「AM」または「PM」を選択してください。

4 **「セット」を選び、決定ボタンを押す。**

ご注意

電源コードを抜いたり停電になった場合、時計の設定はクリアされます。

ディスクを再生する

DVD-V　DVD-VR　VIDEO CD　CD　DATA CD　DATA DVD

DVDビデオやビデオCDなど、再生するディスクの種類によっては操作の方法や動作が異なることがあります。ディスクに付属の取扱説明書をあわせてご覧ください。

データCDとデータDVDのトラック数、フォルダー数、ファイル数の上限について

データCDやデータDVDに記録されているトラック数、フォルダー数、ファイル数が、以下のケースに該当する場合は、本機でディスクは再生できません。

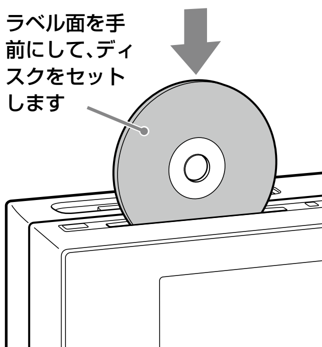
– フォルダー当たりのファイル数またはトラック数が150を超えた場合。
– ディスクに記録されているフォルダー数が200を超えた場合。

上記の上限は、作成したデータCD、データDVDのファイル構造によっても異なる場合があります。

1 ホームメニューの「CD/DVD」を選び、決定ボタンを押す。

2 ディスクをディスクスロットにセットする。

ディスクが引き込まれ、自動的に再生がスタートします。再生がスタートしないときは、►ボタンを押してください。



ご注意

- **特殊な形状（ハート型、カード型、星型など）のディスクを挿入しないでください。内部でディスクが落ち込み、修復不能な損傷を本機に与えるおそれがあります。**
- ディスクを挿入し直すときは、いったんディスクを持ち上げて完全に取り出してからセットし直してください。⏏ボタンを押してディスクが排出された状態のまま、ディスクを押し込まないでください。
- ディスクをディスクスロットに挿したままの状態で、本機の電源を切らないでください。ディスクを落として傷つけるなどの原因になります。
- テープやシールの貼られたディスク、接着剤ののりが付着したディスクなどは、故障するおそれがあるため、本機では使わないでください。
- ディスクを取り出すときは、記録面に触れないようご注意ください。

- 本機の電源が切れているときは、ディスクをディスクスロットに押し込むなど、無理にディスクを挿入しようとしないでください。故障するおそれがあります。
- 変換アダプターを使用して標準サイズにした8cmディスクは、本機の故障の原因となるためお使いになれません。
- ディスクスロット上に物を置かないでください。

その他の操作

こんなときは	操作
停止する	■ボタンを押す。停止したところからつづきを再生したいときは、►ボタンを押します。ディスクの先頭から再生し直すときは、もう一度■ボタンを押してください。
一時停止する	❚❚ボタンを押す[1)]。❚❚ボタンをもう一度押すか、►ボタンを押すと再生を再開します。
曲やチャプターなどを選ぶ[2)]	再生中に❙◄◄ または►►❙ボタンを押す。または、数字ボタンでトラック番号を指定し、決定ボタンを押す[3)]。
DVDビデオのタイトルを選ぶ[4)]	DVDトップメニューボタンを押してタイトルメニューを表示し、↑/↓/←/→ボタンや数字ボタンを押す。
フォルダーを選ぶ[5)]	再生中または一時停止中に📁 +/–ボタンを繰り返し押す。
曲やチャプターなどを早戻しする/早送りする[6)]。（スキャン機能）	再生中に◄◄ボタンまたは►►ボタンを押す。ボタンを繰り返し押すと、ボタンを押すたびに早戻し、早送りの速さが変わります[7)]。通常再生速度に戻すときは、►ボタンを押してください。
スロー再生をする[8)]	一時停止中に◄❚ボタンまたは❚►ボタンを押す[9)]。ボタンを繰り返し押すと、ボタンを押すたびに順方向（❚►）または逆方向（◄❚）でスロー再生の速さが変わります。通常再生速度に戻すときは、►ボタンを押してください。
コマ送り再生をする[8)]	一時停止中に◄❚❚ステップボタンまたはステップ❚❚►ボタンを押す[9)]。ボタンを繰り返し押すと、順方向（ステップ❚❚►）または逆方向（◄❚❚ステップ）でコマ送りの速さが変わります。通常再生速度に戻すときは、►ボタンを押してください。

ディスク

次のページにつづく ⟶

こんなときは	操作
少し前のシーンに戻す[10]	再生中に←•ボタンを押す。
少し先のシーンに進める[10]	再生中に•→ボタンを押す。
アングルを変える[11]	再生中に繰り返しアングルボタンを押す。ボタンを押すたびにアングルが変わります。
字幕言語を切り換える[12]、字幕の表示/非表示を切り換える[13]	再生中に繰り返し字幕ボタンを押す。ボタンを押すたびに字幕の表示/非表示、表示言語が切り換わります。

1) 映像の場合には、一時停止の際に映像が乱れることがあります。

2) JPEG画像ファイルは除く。◀◀/▶▶によるMP3ファイルの早戻し再生、早送り再生中は、トラックの選択はできません。

3) DVDビデオとVRモードで作成されたDVD-R/DVD-RWディスク、ビデオCD、音楽CDの再生時のみ。

4) DVDビデオの再生時のみ。

5) MP3ファイル、JPEG画像ファイルの再生時のみ。

6) JPEG画像ファイルは除く。

7) ディスクによっては、早戻し、早送りの速さが実際と異なることがあります。

8) DVDビデオとVRモードで作成されたDVD-R/DVD-RWディスクの再生時のみ。

9) ビデオCDは除く。

10) DVDビデオとVRモードで作成されたDVD-R/DVD-RWディスク再生時のみ。

11) マルチアングル対応のDVDビデオ再生時のみ。

12) DVDビデオで、複数の言語の字幕の切り換えに対応している場合のみ。

13) DVDビデオ、VRモードで作成されたDVD-R/DVD-RWディスクで、字幕オフの機能に対応している場合のみ。

DVD再生時のオプションメニューについて

「CD/DVD」ファンクションでDVDビデオを再生しているときは、リモコンのDVDトップメニュー、DVDメニュー、画面表示の各ボタンに対応する機能を、オプションメニューから選択して操作することができます。DVDビデオの再生中にオプションボタンを押すと、各メニューを選ぶことができます。

ご注意

- プログラム再生またはシャッフル再生時は、レジューム再生できません。
- ディスクによっては、レジューム再生できません。
- VRモードで作成されたDVD-R/DVD-RWディスクに記録されている静止画を再生しているときは、早戻し再生、早送り再生はできません。
- リピート再生時は、←•/•→による「シーンを戻す」「シーンを進める」の操作ができないことがあります。また、再生中のシーンによっても操作ができないことがあります。
- マルチアングル対応のDVDビデオであっても、ディスクによってはアングルの切り換えができない場合があります。
- DVDビデオによっては、字幕の切り換え、字幕表示の表示/非表示の切り換えができない場合があります。

レジューム機能(つづき再生機能)とレジュームポイントについて

(DVDビデオ、ビデオCDのみ)

本機は、ディスクの再生を停止すると、停止したシーン(「レジュームポイント」)を記憶し、同じディスクを入れて次回再生するときにつづきから再生するようになっています。記憶できるレジュームポイントは、最大でディスク6枚分で、7枚目を記憶すると最初の1枚のレジュームポイントが自動的に消去されます。レジューム機能は、初期設定では有効になっていますが、「システム設定」の「つづき再生機能」を「切」にすることで、無効にすることができます(56ページ)。

ご注意

- DVD-Rディスクなど、ディスクによっては、レジュームポイントが正しく反映されない状態で再生されることがあります。
- ディスクを最初から再生したいときは、■ボタンを2回押してから、►ボタンを押します。
- 電源コードをコンセントから抜くと、レジュームポイントは本機のメモリーから消去されます。

音声を切り換える

再生中に音声ボタンを繰り返し押し、音声出力形式を選ぶ。

CD再生画面が表示されているときは、音声ボタンを押す前に、あらかじめ画面表示ボタンでコントロールメニュー画面を表示してください(26ページ)。
お買い上げ時の音声出力の初期設定は、下線の項目です。

DVDビデオのとき

選択できる音声出力方式は、再生するDVDビデオによって異なります。
4桁の数字が表示されたときは、"言語コード一覧表"(110ページ)を参照してください。同じ言語が2つ以上表示されたときは、複数の音声記録方式で音声が記録されています(PCM、MPEGオーディオ、ドルビーデジタルなど)。このようなDVDビデオでは、再生中に音声の言語や音声の出力方式を選ぶことができます。
なお、DVDのメニューから字幕や音声を切り換えたいときは、リモコンのDVDメニューボタンを押して言語を選択してください。

ディスク

次のページにつづく

DVD-R/DVD-RW (VRモード)ディスクのとき

例：

- 「1：主」：音声トラック1の主音声.
- 「1：副」：音声トラック1の副音声
- 「1：主+副」：音声トラック1の主音声＋副音声
- 「2：主」*：音声トラック2の主音声
- 「2：副」*：音声トラック2の副音声
- 「2：主+副」*：音声トラック2の主音声＋副音声

* ディスクにひとつの音声トラックしか記録されていないときは表示されません。

ビデオCD、音楽CD（CD-DA）、MP3ファイルのとき

右チャンネル、左チャンネルのモノラル出力、左右チャンネルでのステレオ出力が選べます。例えば、ボーカルを右チャンネルに、楽器の演奏を左チャンネルに振り分けた音源を再生しているときに、左チャンネルのモノラル出力を選択し、両スピーカーから楽器の音を出すといった使い方もできます。

- 「ステレオ」：通常のステレオ再生
- 「1/L」：左チャンネルの音(モノラル)
- 「2/R」：右チャンネルの音(モノラル)

スーパー VCDのとき

- 「1：ステレオ」：音声トラック1のステレオ再生
- 「1：1/L」：音声トラック1の左チャンネルの音（モノラル）
- 「1：2/R」：音声トラック1の右チャンネルの音（モノラル）
- 「2：ステレオ」：音声トラック2のステレオ再生
- 「2：1/L」：音声トラック2の左チャンネルの音（モノラル）
- 「2：2/R」：音声トラック2の右チャンネルの音（モノラル）

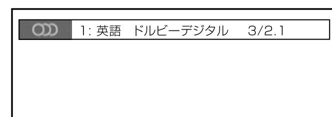
ご注意

音声トラック2が記録されていないスーパー VCDでは、「2：ステレオ」、「2：1/L」、「2：2/R」を選ぶと音が出ません。

音声信号の種類を調べるには

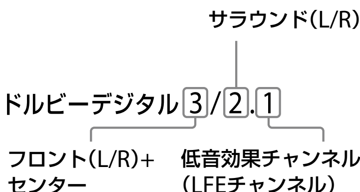
（DVDビデオのみ）
再生中に音声ボタンを一度押すと、現在の音声信号が表示されます。

例：DVDビデオの場合



例えばドルビーデジタル方式の場合、モノラルから5.1 ch方式を含め、複数の信号方式でDVDビデオに音声の記録ができるようになっており、ディスクによって、複数の音声出力方式からお好みの方式を選べるようになっています。

例：ドルビーデジタル5.1 chの場合



ビデオCDのプレイバックコントロール機能を使う

VIDEO CD

ビデオCDバージョン2.0に準拠するビデオCDの場合、PBC（Playback Control）機能を使って、メニュー操作を主体とした対話型の操作が楽しめます。メニューのデザインや構造、操作性は、ビデオCDによって異なるため、本機で再生するときはビデオCDに付属の説明書もあわせてご覧ください。

1 ホームメニューの「CD/DVD」を選び、決定ボタンを押す。

2 ビデオCDをディスクスロットにセットする。

PBC機能のメニューが画面に表示されます。

3 メニュー画面で行いたい（再生したい）項目の番号を数字ボタンで選ぶ。

4 決定ボタンを押す。

5 画面の操作説明にしたがって操作する。

この手順はディスクによって異なることがありますので、ディスク付属の説明書もあわせてご覧ください。

ご注意

シャッフル再生、プログラム再生、リピート再生を設定しているときは、ビデオCDのPBC再生はキャンセルされます。

ちょっと一言

「選択ボタンを押してください」などと表示されたときは、►ボタンを押してください。

PBC機能を使わないでビデオCDを再生するには

1 ビデオCDが停止した状態で、⏮や⏭ボタン、または数字ボタンを押して再生したいトラックを選ぶ。

2 ►ボタンまたは決定ボタンを押す。

選択したトラックの再生がスタートします。このとき、選択用のメニューなどの静止画像は再生できません。PBC再生に戻すには、■ボタンを押して再生を止めたあと、もう一度■ボタンを押してから►ボタンを押して再生をはじめます。

次のページにつづく

「オリジナル」または「プレイリスト」を選んで再生する

DVD-VR

VRモードで作成したDVD-RディスクやDVD-RWディスクの中には、2種類の再生方法を選べる場合があります。ディスクに実際に記録される「オリジナル」のタイトルと、DVDレコーダー等で編集して作成される「プレイリスト」というタイトルで、本機ではいずれかを選んで再生することができます。

1 ディスクの再生が停止していることを確認して、画面表示ボタンを押す。

コントロールメニュー画面が表示されます。

2 ↑/↓ボタンで（「オリジナル/プレイリスト」）を選び、決定ボタンを押す。

「オリジナル/プレイリスト」の設定項目が表示されます。

3 ↑/↓ボタンで項目を選ぶ。

- 「プレイリスト」：オリジナルをもとに編集して作られたタイトルを再生します。
- 「オリジナル」：記録された元のタイトルを再生します。

4 決定ボタンを押す。

サーチ機能で再生対象を検索する

DVD-V **DVD-VR** **VIDEO CD** **CD** **DATA CD** **DATA DVD**

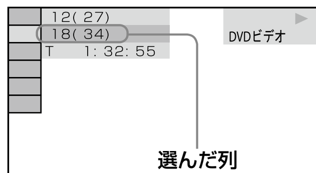
タイトルやトラック、シーンやインデックス、ファイルやフォルダーなど、ディスクに記録されているさまざまな情報から再生対象を検索することができます。
タイトルやトラックなどには、ディスク上で番号がつけられているので、その番号を選んで頭出ししたり、経過時間のタイムコードを入力して場面を探すこともできます（タイムサーチ機能）。

1 画面表示ボタンを押す。

コントロールメニュー画面が表示されます。

2 ↑/↓ボタンで検索項目を選ぶ。

例：（「チャプター」）を選んだとき
"＊＊（＊＊）"が選ばれます（＊＊は任意の数字）。カッコ内の数字はチャプターの総数です。



3 決定ボタンを押す。

"＊＊（＊＊）"が"– –（＊＊）"に変わります。

4 ↑/↓ボタンまたは数字ボタンで、タイトル、トラック、フォルダー、ファイルなどの番号を入力する。

入力を間違えたときは、クリアボタンを押して入力し直してください。

5 決定ボタンを押す。

選んだ項目（タイトルやトラック、フォルダー、ファイルなど）の再生がスタートします。

ちょっと一言

コントロールメニュー画面が表示されていない状態でも、数字ボタンと決定ボタンを押して、チャプター（DVDビデオ、DVD-R/DVD-RW（VRモード））やトラック（ビデオCD、音楽CD）を探すことができます。

タイムコードを入力して場面を探すには（タイムサーチ機能）

（DVDビデオ、DVD-R/DVD-RW（VRモード）のみ）

1 画面表示ボタンを押す。

コントロールメニュー画面が表示されます。

2 ↑/↓ボタンで（「時間」）を選ぶ。

"T＊＊:＊＊:＊＊"（現在のタイトルの経過時間）が選択されます。

3 決定ボタンを押す。

"T＊＊:＊＊:＊＊"が"T– –:– –:– –"に変わります。

4 数字ボタンでタイムコードを入力し、決定ボタンを押す。

例えば、始まりから2時間10分20秒過ぎた場面を探すには、「21020」と入力します。
入力を間違えたときは、クリアボタンを押して入力をやり直してください。

ご注意

ディスクによっては、タイムサーチ機能が使えないことがあります。

コントロールメニュー画面から再生対象を選ぶ

DATA CD　DATA DVD

1 ディスクの再生が停止していることを確認して、画面表示ボタンを押す。

コントロールメニュー画面が表示されます。

2 ↑/↓ボタンで（「ミュージック/フォト」）を選び、決定ボタンを押す。

- 「ミュージック＆フォト」：同じフォルダー内のMP3とJPEG画像ファイルを、音声つきスライドショーの再生対象として優先します。
- 「ミュージック」：MP3ファイルを再生対象として優先します。
- 「フォト」：JPEG画像ファイルを再生対象として優先します。

ディスク

次のページにつづく

3 ↑/↓ボタンで設定を選び、決定ボタンを押す。すでに設定が選ばれているときは、DVDメニューボタンを押してください。

選択した設定にマッチしたファイルを含む、フォルダーのリストが表示されます。

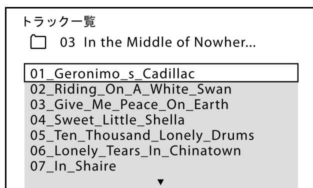
4 再生したいフォルダーを選ぶ。

フォルダーを再生するとき

►ボタンを押す。
選択したフォルダー内の最初のファイルから再生がスタートします。
再生を停止するときは、■ボタンを押してください。

MP3ファイルを再生するとき

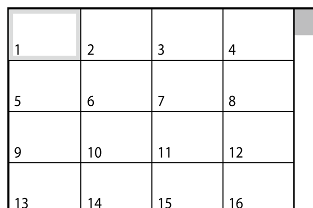
1 決定ボタンを押す。
「トラック一覧」画面が表示されます。



2 ↑/↓ボタンで再生したいMP3ファイルを選び、決定ボタンを押す。
選択したMP3ファイルの再生がスタートします。
再生を停止するときは、■ボタンを押してください。

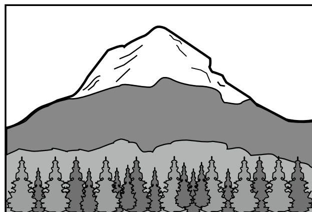
JPEG画像ファイルを表示するとき

1 ピクチャーナビボタンを押す。
選択したフォルダー内の最初の16個のJPEG画像のサムネイル表示画面（縮小画面）が表示されます。



2 ↑/↓/←/→ボタンで表示したい画像ファイルを選び、決定ボタンを押す。
選択した画像ファイルが表示されます。次の画像またはひとつ前の画像を表示したいときは、→/←ボタンを押してください。サムネイル表示画面に戻りたいときは、ピクチャーナビボタンを押します。

画像ファイルを選択したあとに►ボタンを押した場合には、選択した画像ファイルからスライドショーがスタートします。



その他の操作

こんなときは	操作
次または前のページの「トラック一覧」「フォルダー一覧」を表示する	←•ボタン（前）または•→ボタン（次）を押す。
次のフォルダーのMP3ファイルを再生する	►►Iボタンを繰り返し押し、再生中のフォルダーの最後のトラックで►►Iボタンを一度押す。元のフォルダーに戻りたいときは、「フォルダー一覧」画面でフォルダーを選択してください。
「トラック一覧」の画面から「フォルダー一覧」の画面に戻る	戻るボタンを押す。

こんなときは	操作
次のフォルダーのJPEG画像ファイルを表示する	➡ボタンを繰り返し押し、再生中のフォルダーの最後のファイルで➡ボタンを一度押す。元のフォルダーに戻りたいときは、「フォルダー一覧」画面でフォルダーを選択してください。
JPEG画像ファイルを90度回転する	画像の表示中またはスライドショーの再生中に⬆または⬇ボタンを繰り返し押す。元の表示に戻したいときは、クリアボタンを押してください。

ご注意

- 本機が対応するファイルフォーマットは次のとおりです。
  – MP3：拡張子「.mp3」
  – JPEG：拡張子「.jpg」または「.jpeg」
  上記に該当する拡張子をファイル名が持っていても、フォーマットが異なっている場合には、本機では再生できないか、再生時に不具合が生じるおそれがあります。特に、オーディオファイルが本機での再生に適さない場合、大音量のノイズとなり、スピーカーや本機の故障の原因となることがあります。
- 本機は、エンコードソフトウェアや書き込み用ソフトウェア、CD-R/RWドライブ、DVD-R/RWドライブ、DVDレコーダーなどの書き込み機器、使用メディアなど、ディスクの作成に必要な機器やソフトウェアのすべてを保証するものではありません。作成したディスクが本機での再生に適さない場合、ノイズが再生される、再生が途切れる、まったく再生されないなど、不具合が発生するおそれがあります。

次のページにつづく

- 次のような場合、ディスクの再生が始まるまでにしばらく時間がかかることがあります。
  - ディスク上のファイル構造が極端に複雑になっている。
  - マルチセッション形式で記録したディスク
  - 「ファイナライズ処理」が行われていないディスク（終了情報が記録されていないため、追加書き込みが可能な状態となっているデータCDやデータDVD）
  - ほかのフォルダー内の曲やファイルを再生した直後での再生開始
- 再生するディスクが、CD-R、CD-RW、DVD-R、DVD-RW、DVD+R、DVD+RWのいずれかのディスクであっても、記録されているファイルのフォーマットによっては本機で再生できないことがあります。
- 本機が認識可能なディスクの最大階層（フォルダーレベル）は、8階層です。
- JPEG画像ファイルは、ファイルによっては本機で再生できない場合があります（幅と高さのサイズが8×8ピクセル以下のJPEG画像など）。
- JPEG画像ファイルを回転したあとに、次または前の画像を選ぶために←または→ボタンを押すと、回転した画像は元の表示に戻ります。

JPEG画像をBGMつきスライドショーとして楽しむ

（データCD、データDVDのみ）

MP3ファイルとJPEG画像ファイルが、データCDまたはデータDVDの同じフォルダー内に記録されている場合には、JPEG画像を音声つきでスライドショーとして再生することができます。

1 ディスクの再生が停止していることを確認して、画面表示ボタンを押す。

コントロールメニュー画面が表示されます。

2 ↑/↓ボタンで ♫↔▣（「ミュージック/フォト」）を選び、決定ボタンを押す。

「ミュージック/フォト」の設定項目が表示されます。

3 ↑/↓ボタンで「ミュージック＆フォト」を選び、決定ボタンを押す。すでに選ばれているときは、DVDメニューボタンを押してください。

「フォルダー一覧」画面が表示されます。

4 ↑/↓ボタンで再生したいフォルダーを選び、►ボタンを押す。

選択したフォルダー内の画像でスライドショーがスタートします。

5 画面表示ボタンを押し、CD再生画面から画像表示画面に切り換える。

画面表示ボタンを繰り返し押すことで、CD再生画面と画像表示画面をいつでも切り換えることができます。

スライドショーを停止するときは、■ボタンを押してください。

音楽のみ、または写真のみを再生したいときは、手順3で「ミュージック」または「フォト」を選択してください。

ご注意

JPEG画像ファイルとMP3ファイルのファイルサイズが大きすぎる場合には、スライドショー再生の処理に負荷がかかるため、音声が途切れて再生されることがあります。

スライドショーの速さを変えるには

（JPEG画像ファイルのみ）

1 スライドショーの再生中に画面表示ボタンを押す。
コントロールメニュー画面が表示されます。
コントロールメニューに「スライドショーの速さ」が表示されていないときは、「スライドショーの速さ」が表示されるまで画面表示ボタンを繰り返し押してください。

2 ↑/↓ボタンで（「スライドショーの速さ」）を選び、決定ボタンを押す。
「スライドショーの速さ」の設定項目が表示されます。

3 ↑/↓ボタンで設定を選ぶ。
お買い上げ時の初期設定は、下線の項目です。

- 「標準」：標準の表示間隔です。
- 「速い」：「標準」よりも表示間隔が短くなります。
- 「遅い」：「標準」よりも表示間隔が長くなります。
- 「さらに遅い」：「遅い」よりも表示間隔が長くなります。

4 決定ボタンを押す。
選んだ設定が有効になります。

ご注意

JPEG画像ファイルによっては、選択した表示間隔よりも表示間隔が長くなる場合があります。特に、プログレッシブJPEG画像ファイルや300万ピクセル以上のJPEG画像ファイルでスライドショーを行う場合、画像ファイルそのものの表示に負荷がかかるため、スライドショーの表示間隔も設定よりも長くなります。

スライドショーの効果を選ぶ

（JPEG画像ファイルのみ）

1 スライドショーの再生中に画面表示ボタンを押す。
コントロールメニュー画面が表示されます。
コントロールメニューに「スライドショーの効果」が表示されていないときは、「スライドショーの効果」が表示されるまで画面表示ボタンを繰り返し押してください。

2 ↑/↓ボタンで（「スライドショーの効果」）を選び、決定ボタンを押す。
「スライドショーの効果」の設定項目が表示されます。

3 ↑/↓ボタンで設定を選ぶ。
お買い上げ時の初期設定は、下線の項目です。

- 「効果 1」：画像が上から下に向かって表示されます。
- 「効果 2」：画像が左から右に向かって表示されます。
- 「効果 3」：画像が画面中央から外側に向かって表示されます。
- 「効果 4」：ランダムに選ばれたスライドショーの効果が適用されます。
- 「効果 5」：次の画像が前の画像に重なって表示されます。
- 「切」：スライドショーの効果を使いません。

4 決定ボタンを押す。
選んだ設定が有効になります。

次のページにつづく

ファイルタイプの優先設定について

MP3ファイル、JPEG画像ファイルの内、再生を優先させるファイルタイプを選ぶことができます。
ファイルタイプの優先設定については、109ページの一覧表にも詳細がありますので、あわせてご覧ください。

1 ディスクの再生が停止していることを確認して、画面表示ボタンを押す。
コントロールメニュー画面が表示されます。

2 ↑/↓ボタンで（「ミュージック/フォト」）を選び、決定ボタンを押す。
「ミュージック/フォト」の設定項目が表示されます。

3 ↑/↓ボタンで設定を選ぶ。

- 「ミュージック＆フォト」：同じフォルダー内にMP3ファイルとJPEG画像ファイルがある場合に、音声つきスライドショーの再生対象として優先します。
- 「ミュージック」：MP3ファイルを再生対象として優先します。
- 「フォト」：JPEG画像ファイルを再生対象として優先します。

4 決定ボタンを押す。
選んだ設定が有効になります。

プレイモードを使う

好きな順に曲を聞く（プログラム再生）

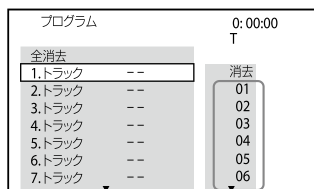
VIDEO CD　CD

ディスクの中のトラックを選んで好きな順に再生できます。最大99のトラックを、再生したい順にプログラムできます。

1 ディスクの再生が停止していることを確認して、画面表示ボタンを押す。
コントロールメニュー画面が表示されます。

2 ↑/↓ボタンで（「プログラム」）を選び、決定ボタンを押す。
「プログラム」の設定項目が表示されます。

3 ↑/↓ボタンで「設定→」を選び、決定ボタンを押す。



4 ➡ボタンを押す。

カーソルがトラックの列「T」（この例では「01」）に移動します。

プログラム		0: 00:00
		T
全消去		
1.トラック	--	消去
2.トラック	--	01
3.トラック	--	02
4.トラック	--	03
5.トラック	--	04
6.トラック	--	05
7.トラック	--	06
▼		▼

5 プログラムしたいトラックを選ぶ。

例えばトラック「02」をプログラムする場合、⬆/⬇ボタンで「T」の下にある「02」を選び、決定ボタンを押す手順となります。

選択したトラック

プログラム		0: 03:51
		T
全消去		
1.トラック	02	消去
2.トラック	--	01
3.トラック	--	02
4.トラック	--	03
5.トラック	--	04
6.トラック	--	05
7.トラック	--	06
▼		▼

プログラムされたトラックの合計時間

6 プログラム再生するトラックを続けて設定したいときは、手順4、5を繰り返す。

7 ►ボタンを押す。

プログラム再生がスタートします。プログラム再生の終了後に►ボタンを押すと、同じプログラムを再生します。

プログラムした内容を変えるには

⬆/⬇ボタンで変更したいトラックナンバーを選び、➡ボタンでトラックナンバーを選び直してください。

プログラムした曲を一曲ずつ消去するには

⬆/⬇ボタンで消去したいトラックナンバーを選び、クリアボタンを押してください。

プログラムした曲をまとめて消去するには

⬆ボタンで「全消去」を選び、決定ボタンを押してください。

通常の再生に戻るには

クリアボタンを押すか、手順3で「切」を選んでください。
同じプログラムを再生したいときは、手順3で「入」を選んだ後、決定ボタンを押してください。

ご注意

- 「リピート」設定を「ディスク」または「トラック」に設定していてプログラム再生を使っているときは、自動的にリピート再生は「入」に切り換わります。
- PBC再生中のビデオCDでは、プログラム再生できません。

ちょっと一言

次の操作を行うと、プログラムした内容は消去され、プログラム再生がキャンセルされます。

– ディスクを取り出した場合。
– 本機の電源を切った場合。
– トラック検索、インデックス検索を行ったとき。
– ホームボタンを押してホームメニューに戻ったとき。

次のページにつづく

順不同に再生する（シャッフル再生）

VIDEO CD　CD　DATA CD　DATA DVD

ディスクに記録されたトラックの順番に関係なく、本機がランダム（無作為）に順番を選んで再生します。再生する順番は、シャッフル再生するたびに変わります。

1 **画面表示ボタンを押す。**

コントロールメニュー画面が表示されます。

2 **↑/↓ボタンで（「シャッフル」）を選び、決定ボタンを押す。**

「シャッフル」の設定項目が表示されます。

3 **↑/↓ボタンで設定を選ぶ。**

お買い上げ時の初期設定は、下線の項目です。

ビデオCDまたは音楽CD（CD-DA）を再生しているとき

- 「切」：シャッフル再生機能を使いません。
- 「トラック」：ディスクのトラックすべてを対象にシャッフル再生します。

プログラム再生を使っているとき

- 「切」：シャッフル再生機能を使いません。
- 「入」：プログラム登録したすべてのトラックを対象にシャッフル再生します。

データCDまたはデータDVDを再生しているとき

- 「切」：シャッフル再生機能を使いません。
- 「入（ミュージック）」：再生中のフォルダー内のMP3ファイルを対象にシャッフル再生します。

4 **決定ボタンを押す。**

5 **►ボタンを押す。**

シャッフル再生がスタートします。通常の再生に戻りたいときは、クリアボタンを押すか、手順3で「切」を選んでください。

ご注意

- PBC再生中のビデオCDではシャッフル再生はできません。
- MP3ファイルのシャッフル再生では、同じ曲が繰り返し再生されることがあります。

ちょっと一言

次の操作を行うと、シャッフル再生はキャンセルされます。

– ディスクを取り出した場合。
– 本機の電源を切った場合。
– トラック検索、インデックス検索を行ったとき。
– ホームボタンを押してホームメニューに戻ったとき。

繰り返し再生する



ディスクのすべて、またはひとつのタイトル、チャプター、トラック、フォルダーなどを繰り返し再生できます。シャッフル再生やプログラム再生と組み合わせて使うこともできます。

1 画面表示ボタンを押す。

コントロールメニュー画面が表示されます。

2 ↑/↓ボタンで（「リピート」）を選び、決定ボタンを押す。

「リピート」の設定項目が表示されます。

3 ↑/↓ボタンで設定を選ぶ。

お買い上げ時の初期設定は、下線の項目です。

DVDビデオ、DVD-R/DVD-RW（VRモード）を再生しているとき

- 「切」：リピート再生機能を使いません。
- 「ディスク」：ディスクのすべてのタイトルを繰り返し再生します。
- 「タイトル」：再生中のタイトルを繰り返し再生します。
- 「チャプター」：再生中のチャプターを繰り返し再生します。

ビデオCDまたは音楽CD（CD-DA）を再生しているとき

- 「切」：リピート再生機能を使いません。
- 「ディスク」：ディスクのすべてのトラックを繰り返し再生します。
- 「トラック」：再生中のトラックを繰り返し再生します。

データCDまたはデータDVDを再生しているとき

- 「切」：リピート再生機能を使いません。
- 「ディスク」：ディスクのすべてのフォルダーを繰り返し再生します。
- 「フォルダー」：再生中のフォルダーを繰り返し再生します。
- 「トラック」*：再生中のトラックを繰り返し再生します。

* MP3ファイルのみ。

プログラム再生、シャッフル再生を使っているとき

- 「切」：リピート再生機能を使いません。
- 「入」：プログラム再生、シャッフル再生を繰り返します。

4 決定ボタンを押す。

5 ►ボタンを押す。

リピート再生がスタートします。通常の再生に戻りたいときは、クリアボタンを押すか、手順3で「切」を選んでください。

ディスク

次のページにつづく

ご注意

- DVDビデオによっては、リピート再生機能が使えないことがあります。
- PBC再生中のビデオCDではリピート再生はできません。
- MP3ファイルおよびJPEG画像ファイルを含むデータCDやデータDVDをリピート再生した場合、再生経過時間の表示が同じでないことが原因で、音声が映像と一致しないことがあります。
- 次の操作を行うと、リピート再生はキャンセルされます。
  – ディスクを取り出した場合。
  – 本機の電源を切った場合。
  – ファンクションを変更したとき。
  – ホームボタンを押してホームメニューに戻ったとき。

音声と映像のずれを調節する（A/V SYNC）

DVD-V　DVD-VR　VIDEO CD

映像と音声の同期がずれることがあります。そのようなときは、A/V SYNC機能でずれを調節することができます。

1 画面表示ボタンを押す。

コントロールメニュー画面が表示されます。

2 ↑/↓ボタンで（「A/V SYNC」）を選び、決定ボタンを押す。

「A/V SYNC」の設定項目が表示されます。

3 ↑/↓ボタンで設定を選ぶ。

お買い上げ時の初期設定は、下線の項目です。

- 「切」：調節しません。
- 「入」：音声と映像のずれを調節します。

4 決定ボタンを押す。

ご注意

入力される映像と音声のデータの形式によっては、A/V SYNCによるずれの調整が有効に働かないことがあります。

DVDの視聴制限を設定する

DVD-V

DVDビデオの中には、見る人の年齢などに応じて、視聴を制限するしくみが設けられたものがあります。視聴制限機能を使うと、制限レベルに該当するシーンは再生時にスキップされるか、代替の映像に置き換わります。

1 ディスクの再生が停止していることを確認して、画面表示ボタンを押す。

コントロールメニュー画面が表示されます。

2 ↑/↓ボタンで（「設定」）を選び、決定ボタンを押す。

「設定」の設定項目が表示されます。

3 ↑/↓ボタンで「カスタム」を選び、決定ボタンを押す。

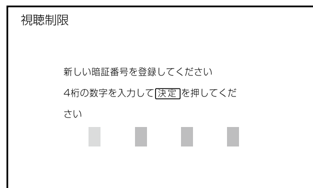
設定画面が表示されます。

4 ↑/↓ボタンで「システム設定」を選び、決定ボタンを押す。

5 ↑/↓ボタンで「視聴制限」を選び、決定ボタンを押す。

暗証番号が登録されていないとき

暗証番号登録の画面が表示されます。



数字ボタンで4桁の暗証番号を入力し、決定ボタンを押します。
入力後、確認の入力画面が表示されます。

暗証番号がすでに登録されているとき

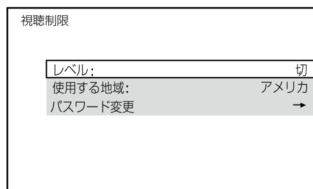
暗証番号の入力画面が表示されます。

暗証番号の入力を間違えたときは

決定ボタンを押す前に←ボタンを押して、正しい数字を入力してください。

6 数字ボタンで4桁の暗証番号を入力し、決定ボタンを押します。

視聴制限のレベル設定の画面が表示されます。



ディスク

次のページにつづく

7 ↑/↓ボタンで「使用する地域」を選び、決定ボタンを押す。

「使用する地域」の設定項目が表示されます。

8 ↑/↓ボタンで視聴制限レベルの基準地域を選び、決定ボタンを押す。

「その他→」を選んだときは、111ページの表から地域コードを選び、数字ボタンでコードを入力します。

9 ↑/↓ボタンで「レベル」を選び、決定ボタンを押す。

「レベル」の設定項目が表示されます。

10 ↑/↓ボタンで視聴制限レベルを選び、決定ボタンを押す。

レベルの数字が小さいほど制限が厳しくなります。

視聴制限を解除するには

手順10で「レベル」を「切」にしてください。

暗証番号を変更するには

1. **"DVDの視聴制限を設定する"（51ページ）の手順1 ～ 6を行い、視聴制限の設定画面で「パスワード変更」を選び、決定ボタンを押す。**
2. **数字ボタンで４桁の暗証番号を入力し、決定ボタンを押す。**
3. **確認画面で暗証番号を再度入力し、決定ボタンを押す。**

暗証番号を忘れてしまったときは

暗証番号を忘れてしまったときは、視聴制限の画面で、暗証番号を入力する案内が表示されているときに、6桁の数字「199703」を数字ボタンで入力し、決定ボタンを押します。画面に、新しい4桁の暗証番号を入力する案内が表示されます。

視聴制限レベルを設定したディスクを再生するには

1. **ディスクをディスクスロットにセットする。再生がスタートしないときは、►ボタンを押してください。**
   視聴制限の暗証番号入力画面が表示されます。
2. **数字ボタンで4桁の暗証番号を入力し、決定ボタンを押す。**
   再生がスタートします。

ご注意

- 視聴制限機能がないDVDは、本機で視聴制限を設定しても制限はできません。
- DVDによっては、再生中に視聴設定の変更を要求される場合があります。その場合は、暗証番号を入力し、レベルを変更してください。
  つづき再生機能（56ページ）が解除されると、制限レベルは元のレベルに戻ります。

「設定」画面を使う

コントロールメニューの「設定」画面を使うと、「CD/DVD」ファンクションの利用時に画質や音声などさまざまな設定ができます。また、DVDの字幕の言語やメニューの表示言語の設定などもできます。

ご注意

あらかじめ再生条件が設定されているディスクがあります。その場合は、ディスクの情報が優先的に利用されるため、「設定」画面での設定が反映しないことがあります。

1 ディスクの再生が停止していることを確認して、画面表示ボタンを押す。

コントロールメニュー画面が表示されます。

2 ↑/↓ボタンで（「設定」）を選び、決定ボタンを押す。

「設定」の設定項目が表示されます。

3 ↑/↓ボタンで「カスタム」を選び、決定ボタンを押す。

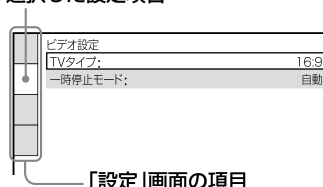
設定画面が表示されます。

4 ↑/↓ボタンで「言語設定」、「ビデオ設定」、「オーディオ設定」、「システム設定」から設定したい項目を選ぶ。

「設定」画面で選べる項目

- ：言語設定
- ：ビデオ設定
- ：オーディオ設定
- ：システム設定

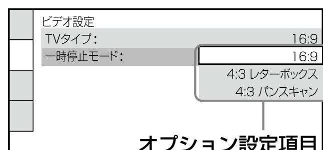
例：「ビデオ設定」の場合



5 ↑/↓ボタンで項目を選び、決定ボタンを押す。

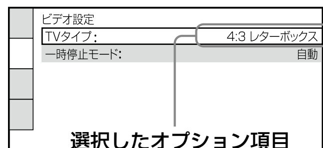
選択した項目のオプション設定項目が表示されます。

例：「TVタイプ」の場合



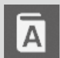
6 ↑/↓ボタンでオプション設定項目を選び、決定ボタンを押す。

オプション設定項目が選ばれ、設定が終了します。



ディスク

次のページにつづく



表示言語や音声言語を設定する（「言語設定」）

画面の表示言語や音声の言語を設定することができます。

画面表示言語

画面の表示言語を切り換えます。

メニュー言語*

（DVDビデオのみ）
メニューの言語を切り換えます。「その他→」を選んだときは、"言語コード一覧表"（110ページ）から言語を選び、コードを入力してください。数字ボタンで言語コードを入力します。

音声言語*

（DVDビデオのみ）
音声の言語を切り換えます。
「オリジナル」を選んだときは、ディスク側の優先言語が選ばれます。「その他→」を選んだときは、"言語コード一覧表"（110ページ）から言語を選び、コードを入力してください。数字ボタンで言語コードを入力します。

字幕言語*

（DVDビデオのみ）
字幕の言語を切り換えます。「音声連動」を選んだときは、字幕言語は、音声の言語に合わせて切り換わります。「その他→」を選んだときは、"言語コード一覧表"（110ページ）から言語を選び、コードを入力してください。数字ボタンで言語コードを入力します。

* 選択した言語がDVDビデオ側に用意されていない場合は、ディスクに用意されている言語のいずれかが選択されます（ディスクによっては、自動で言語が選択されない場合もあります）。

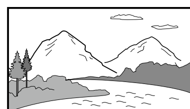


映像の表示に関する設定をする（「ビデオ設定」）

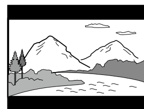
本機につないだテレビの画面の種類（ワイドテレビまたは4:3画面テレビ）を設定します。
お買い上げ時の初期設定は、下線の項目です。

TVタイプ

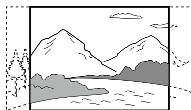
（DVDビデオのみ）
16:9：ワイドテレビ、またはワイドモードのあるテレビとつなぐときに選択します。



4:3 レターボックス*：4:3画面のテレビとつなぐときに選択します。ワイド画像は横長のまま表示し、画面の上下は黒く表示します。



4:3 パンスキャン*：4:3画面のテレビとつなぐときに選択します。ワイド画像は映像の左右を自動的にカットし、テレビ画面全体に表示します。



一時停止モード

（DVDビデオ、DVD-R/DVD-RW（VRモード）のみ）

自動：被写体がダイナミックな動きをする映像でも、映像がぶれずに見られます。通常はこの設定を選択してください。

フレーム：被写体の動きが少ない映像の場合に、高い解像度で見られます。

* DVDによっては、「4:3 レターボックス」あるいは「4:3 パンスキャン」に設定していても、自動的にどちらかに変更されて再生されるものがあります。



オーディオに関する設定をする（「オーディオ設定」）

オーディオに関する設定をします。
お買い上げ時の初期設定は、下線の項目です。

オーディオDRC[1)2)]

（DVDビデオのみ）

切：ダイナミックレンジの圧縮はしません。

スタンダード：オリジナルの音源のダイナミックレンジに忠実なサウンドを再現する標準設定です。ボリュームを下げる必要がある状況などに（深夜の映画鑑賞など）、この設定を推奨します。

最大：ダイナミックレンジを最大限に圧縮します。

音声トラック自動選定モード

（DVDビデオのみ）
複数の音声記録方式で音声が記録されているDVDビデオを再生するときに、チャンネル数の最も多い音声記録方式（PCM、MPEGオーディオ、ドルビーデジタル）を優先して再生できます[3)]。

切：優先しません。

入[4)]：優先します。

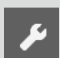
1) オーディオDRCはドルビーデジタルソースにのみ対応します。

2) DRCは、Dynamic Range Compressionの略称です。

3) PCM、ドルビーデジタル、MPEGオーディオの各方式のチャンネル数が同じ場合、PCM、ドルビーデジタル、MPEGオーディオの順で優先されます。

4) この設定を「入」にすると、言語が切り換わることがあります。これは、「音声トラック自動選定モード」の設定が、「言語設定」の「音声言語」（54ページ）より優先されるためです。またこの設定は、ディスクによっては有効にならないことがあります。

次のページにつづく



システムに関する設定をする（「システム設定」）

システムに関する設定をします。
お買い上げ時の初期設定は、下線の項目です。

スクリーンセーバー

テレビ画面の焼きつき（残像現象）を防ぐのに役立ちます。いずれかのボタン（►ボタンなど）を押すと、スクリーンセーバー画面は消えます。

入：本機を操作しない状態が15分以上経過すると、スクリーンセーバー画面が表示されます

切：スクリーンセーバー機能を使いません。

背景画面

ディスク（音楽CDやMP3ファイルを記録したデータCD、データDVD）の再生中または停止中の画面の背景を設定します。

ジャケットピクチャー：ディスク（DVDビデオやCD-EXTRAなど）にあらかじめ記録されているジャケットピクチャー（静止画像）を、背景画面に表示するよう設定します。ディスクにジャケットピクチャーが記録されていないときは、「グラフィックス」の画像が表示されます。

グラフィックス：あらかじめ本機に用意されている静止画像を、背景画面に設定します。

青：背景色を青に設定します。

黒：背景色を黒に設定します。

視聴制限

視聴制限を設定します。詳しくは、"DVDの視聴制限を設定する"（51ページ）をご覧ください。

つづき再生機能

（DVDビデオ、ビデオCDのみ）

入：つづき再生するポイントを記録します。最大6枚分のディスクのポイントを記録できます。

切：つづき再生するポイントを記録しません。現在本機で再生しているディスクのみつづき再生をします。

リセット

コントロールメニューの「設定」の各設定を、お買い上げ時の状態に戻します。詳しくは、"「CD/DVD」ファンクションの設定をお買い上げ時の設定に戻すには"（99ページ）をご覧ください。

ラジオを聞く

本機では、オートチューニングモード、マニュアルチューニングモードでのラジオ放送の受信、ダイレクト選局モードによる周波数の入力、または登録した放送局を選択する方法のいずれかでラジオを聞くことができます。

1 **ホームメニューの「チューナー」を選び、決定ボタンを押す。**

2 **チューナー /バンドボタンを繰り返し押し、「FM」または「AM」を選ぶ。**

3 **オプションボタンを押し、オプションメニューを表示する。**

4 **チューニングモードを選ぶ。**

次の手順で設定してください。
「チューニングモード」→ 決定ボタン →「オート」または「マニュアル」を選択→決定ボタン

5 **周波数を合わせる**

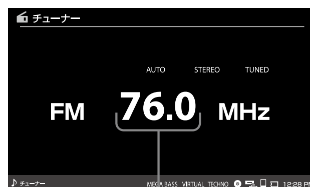
オートチューニング(自動受信)の場合

+/−ボタン(本体では選局 +/−ボタン)を押します。周波数の数字が動きはじめ、オートチューニングがはじまります。
放送局を受信すると自動的に止まり、「TUNED」(受信中)と「STEREO」(FMステレオ放送のときのみ)が表示されます。
「TUNED」が表示されず、放送局を受信できなかったときは、■ボタンを押して、以下の「マニュアルチューニング(手動受信)の場合」の手順にしたがって周波数を合わせてください。

マニュアルチューニング(手動受信)の場合

+/−ボタン(本体では選局 +/−ボタン)を押し、聞きたい放送局の周波数に合せます。

例：FM受信の場合



チューナー

周波数を知っている放送局を聞くには

ダイレクト選局機能を使うと、数字ボタンで周波数を入力して受信したい放送局に合わせることができます。
FMまたはAMのチューナー画面を表示した状態で、ダイレクト選局ボタンを押し、数字ボタンで周波数を入力します。例えば、FMの76.0MHzの周波数に合わせる場合、FMのチューナー画面を表示した状態で、7→6→0と入力し、決定ボタンを押します。操作をキャンセルしたいときは、ダイレクト選局ボタンをもう一度押してください。

ちょっと一言

FMとAMは、オプションメニューから切り換えることもできます。「チューナー」ファンクションを選んだあとにオプションボタンを押し、次の手順で切り換えてください。
「FM/AM選択」 → 決定ボタン → 「FM」または「AM」を選択 → 決定ボタン

放送局を登録する

1 登録したい放送局の周波数に合わせる。

2 オプションボタンを押し、オプションメニューを表示する。

3 ↑/↓ボタンで「放送局登録」を選び、決定ボタンを押す。

4 ⏮/⏭ボタンまたは数字ボタンでプリセット番号を選ぶ。

5 決定ボタンを押す。

登録が完了します。
すでに登録済みのプリセット番号を選んだ場合は、新たに受信している放送局の登録に置き換わります。

6 他の放送局を続けて登録したいときは、手順1 ～ 5を繰り返す。

FM放送は20局まで、AM放送は10局まで登録することができます。

登録した放送局を聞くには

1 「ラジオを聞く」の手順1 ～ 3にしたがって、プリセットチューニングモードを選ぶ。

「チューニングモード」 → 決定ボタン → 「プリセット」を選択 → 決定ボタン

2 ⏮/⏭ボタンまたは数字ボタンを押し、聞きたい放送局のプリセット番号を選ぶ。

ちょっと一言

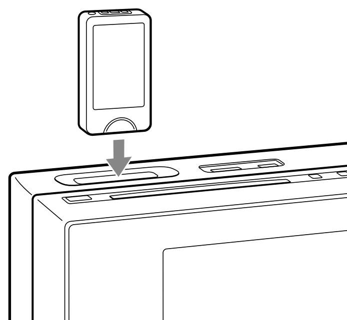
- FMステレオ放送の受信中に雑音が多いときは、ステレオ受信ではありませんが、モノラル受信に切り換えることで聞きやすくなります。
  FM放送の受信中にオプションボタンを押し、次の手順でモノラル受信に切り換えてください。ステレオ受信に戻したいときは、「ステレオ」を選んでください。
  「FMモード」 → 決定ボタン → 「モノラル」を選択→決定ボタン
- ラジオ放送の受信状態が悪い場合は、アンテナの向きや位置を変えてみてください。

“ウォークマン”のコンテンツを再生する

別売りの“ウォークマン”を本機に接続することで、“ウォークマン”の音楽や音声データ、ビデオファイルを再生することができます。
“ウォークマン”の対応機種については、下記ホームページの機種別サポートをご覧ください。対応機種以外の“ウォークマン”の動作は保障していません。

http://www.sony.co.jp/systemstereo-support/

1 “ウォークマン”を本体のWM-PORTコネクターに接続する。



2 ホームメニューの「ウォークマン」を選び、決定ボタンを押す。

3 “ウォークマン”のホームメニューで「ミュージック」や「ポッドキャスト」、「ビデオ」など、ライブラリーを選ぶ。

その他の操作

こんなときは	操作
一時停止する	❚❚ボタンを押す。
再生を止める	■ボタンを押す。
一時停止状態から再生を再開する	▶ボタンを押す。
フォルダーをスキップする*	📁 +/−ボタンを押す。
曲を選ぶ、オーディオブックやポッドキャストデータのチャプターを選ぶ	⏮/⏭ボタンを押す。ボタンの長押しで早戻し/早送りができます。
曲中の聞きたい部分を探す、オーディオブックやポッドキャストデータの聞きたい部分を探す	再生中に◀◀/▶▶ボタンを押し続け、聞きたいところで指を離す。

* フォルダーのスキップができないときは、“ウォークマン”のサーチメニューの検索方法を「アーティスト」または「アルバム」にしてください。

次のページにつづく

“ウォークマン”の充電について

“ウォークマン”を本機のWM-PORTコネクターに挿し込むと、ウォークマン充電ランプが点灯し、自動的に充電が始まります。充電は、本機の電源が入っているとき、電源が切れているときのいずれの状態でも可能ですが、電源が切れているときは4時間の給電を行います。4時間が経過すると、WM-PORTへの給電が切れ、ウォークマン充電ランプが消灯して自動的に充電がストップします。
“ウォークマン”の充電状態は、ウォークマンに表示されます。詳しくは、“ウォークマン”の取扱説明書をご覧ください。

電源オフ時の充電機能を解除するには

電源を切った状態でも“ウォークマン”を充電できるよう、本機の“ウォークマン”の充電機能は、お買い上げ時の初期設定では有効になっています。充電機能を必要としない場合は、次の手順で解除することができます。
“ウォークマン”の充電機能を解除するときは、あらかじめオートデモ機能をオフにしてください（28ページ）。なお、解除する操作は本体のボタンを使って行ってください。

1 “ウォークマン”を本体のWM-PORTコネクターに接続し、電源を切る。

2 ►ボタンを押しながら、電源ボタン（I/⏻）を約1.5秒間押し続ける。

ウォークマン充電ランプが消灯し、充電機能が解除されます。
充電機能を再び有効にしたいときは、手順１の操作で電源をいったん切り、►ボタンを押しながら、電源ボタンを押してください。ウォークマン充電ランプが点灯し、充電機能が有効になります。

“ウォークマン”の充電に関するご注意

- オートデモ表示（電源オフ）を行っているときは（28ページ）、“ウォークマン”は充電されません。
- “ウォークマン”の充電中は、パワー・セービングモードに移行しません（28ページ）。

ビデオ出力についてのご注意

- “ウォークマン”のビデオファイルを再生するときは、本機に接続する前に、“ウォークマン”側でビデオ出力がNTSCになっているか確認してください。
- テレビ出力機能を搭載する“ウォークマン”をお使いの場合には、“ウォークマン”側で「テレビ出力」の設定を「オン」にすることで、本機の液晶ディスプレイへ映像を出力することができます。詳しくは、“ウォークマン”の取扱説明書をご覧ください。
- “ウォークマン”の「画面オフタイマー」（スクリーンセーバー機能）によって“ウォークマン”の画面表示が消えると、本機の液晶ディスプレイの表示も消えることがあります。「画面オフタイマー」の時間設定は長めの設定をご利用ください。詳しくは、“ウォークマン”の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- 本機に"ウォークマン"を接続するときは、「データベース作成中」の表示が"ウォークマン"の表示窓から消えていることを確認してから接続してください。
- お使いの"ウォークマン"の機種によっては、本機の操作に対する反応が遅れる場合があります。
- "ウォークマン"を抜き挿しするときは、WM-PORTコネクターの角度に沿ってまっすぐ抜き挿ししてください。また、WM-PORTコネクターが破損するおそれがあるため、"ウォークマン"をひねったり、反らせないようご注意ください。
- "ウォークマン"を接続したままの状態で、本機を移動しないでください。故障の原因となることがあります。
- "ウォークマン"を抜き挿しするときは、本機をしっかり手で押さえ、"ウォークマン"の操作ボタンを誤って押さないようご注意ください。
- 本機のWM-PORTコネクターは、"ウォークマン"専用です。他社製のポータブルオーディオプレーヤーを接続しないでください。
- Bluetooth機能付きの"ウォークマン"は、Bluetooth機能を解除してからお使いください。
- 音が出ないなどの問題が発生した場合は、本機から"ウォークマン"を取りはずし、接続し直してください。
- "ウォークマン"を本機で使用しているときは、"ウォークマン"のヘッドホン端子には音声は出力されません。
- FMチューナーやワンセグチューナー搭載の"ウォークマン"を本機で使用すると、放送が受信できなかったり、感度が低下することがあります。
- 音量は、リモコンまたは本体の音量+/–ボタンを使って調節してください。"ウォークマン"側で音量を調節しても、音量は変わりません。
- "ウォークマン"を取りはずすときは、再生を停止してから取りはずしてください。
- 本機は"ウォークマン"の動作のすべてを保証するものではありません。
- "ウォークマン"の種類によっては、操作できない、または操作が異なる場合があります。

USB機器／メモリーカード

USB機器、メモリーカードご利用の前に

本機で再生できるUSB機器について

本機で使用できるUSB機器の対応機種については、下記ホームページの機種別サポートをご覧ください。対応機種以外のUSB機器の動作は保障していません。

http://www.sony.co.jp/systemstereo-support/

USB機器についてのご注意

- 本機との接続にUSBケーブルを必要とする場合は、USB機器に付属のUSBケーブルをご利用ください。詳しくは、USB機器の取扱説明書をご覧ください。
- USBハブを介して本機とUSB機器を接続しないでください。

本機で再生できる“メモリースティック”について

本機で使用できる“メモリースティック”は、次のとおりです[1)2)]。

– “メモリースティック”[3)]（マジックゲート非対応）
– “メモリースティック”[3)]（マジックゲート対応）
– “マジックゲート メモリースティック”[4)]
– “メモリースティック PRO”[3)]
– “メモリースティック PRO デュオ”
– “ メモリースティック PRO-HG”[5)]
– “ メモリースティック マイクロ”[6)]
（“M2”[7)]）

1) 対応するファイルシステムは、“FAT32”のみです。

2) 本機で動作確認されている “メモリースティック”は、32GBまでです。ただし、すべての“メモリースティック”の動作を保障するものではありません。

3) 本機のメモリーカードスロットは、スタンダードサイズおよびデュオサイズのメモリーカードに対応しています。“メモリースティック”、“メモリースティック デュオ”のいずれのタイプのメモリーカードをご利用の場合も、“メモリースティックデュオ” アダプターは必要ありません。

4) “マジックゲート”とは、暗号化技術を使ったソニーの著作権保護技術です。本機では、マジックゲート機能が必要なデータの再生はできません。

5) 本機は、8ビットパラレルデータ転送には対応していません。

6) “メモリースティック マイクロ”を本機でお使いの場合は、必ず“メモリースティック マイクロ”をデュオサイズのM2アダプターに入れてからお使いください。デュオサイズのM2アダプターに装着されていない状態で挿入すると、“メモリースティック マイクロ”が取り出せなくなる可能性があります。

7) “M2”は“メモリースティック マイクロ”の略称です。

本機で再生できるSDメモリーカードについて

本機で使用できるSDメモリーカードは次のとおりです。

– SDメモリーカード[1)4)]
– miniSDメモリーカード、microSDメモリーカード（miniSDメモリーカードアダプター、microSDメモリーカードアダプターが必要[2)]）[4)]
– SDHCメモリーカード[3)4)]

1) 本機で動作確認されているSDメモリーカードは、2GBまでです。
2) 市販のアダプターの中には、突起部を持つなど形状によって、本機で利用できないものがあります。
3) 本機で動作確認されているSDHCメモリーカードは、32GBまでです。
4) すべのSDメモリーカードの動作を保障するものではありません。

メモリーカードについてのご注意

- メモリーカードを本機のメモリーカードスロットに挿入するときは、正しい向きで挿入してください。
- メモリーカードを挿入するときは、無理に押し込まないでください。無理に押し込むと、メモリーカードが破損したり、本機が故障するおそれがあります。
- メモリーカードを携帯するときは、メモリーカードに付属のケースに入れて携帯してください。また、メモリーカードを使用しないときは、ケースに入れて大切に保管してください。
- メモリーカードの端子部に手や金属で触れないでください。

ご注意

- 再生中は、USB機器またはメモリーカードを本機からはずさないでください。データが破損するおそれがあります。USB機器、メモリーカードのデータの破損、データの損失に対して、当社は一切の責任を負いません。
- USB機器、メモリーカード上の大切なデータはバックアップすることをおすすめします。
- USB機器、メモリーカードによっては、「読みこみ中」のメッセージが表示されるまで、しばらく時間がかかることがあります。
- コンテンツタイプ（「ミュージック」/「フォト」/「ビデオ」）を選んでから、「フォルダー一覧」画面が表示されるまで、しばらく時間がかかることがあります。
- 当社は、エンコードソフトウェアや書き込み用ソフトウェアのすべてを保証するものではありません。作成したファイルが本機での再生に適さない場合、ノイズが再生される、再生が途切れる、まったく再生されないなど、不具合が発生するおそれがあります。
- USB機器、メモリーカードのトラック数、フォルダー数、ファイル数が、以下のケースに該当する場合は、本機では再生できません。コンピュータなどを使って不要なフォルダーやファイルを削除してください。また、不要なフォルダーやファイルは保存しないでください。
  – フォルダー当たりのファイル数が5,000を超えた場合。
  – USB機器またはメモリーカード上のフォルダー数が1,000を超えた場合。
  – USB機器またはメモリーカード上のファイル数が5,000を超えた場合。

  上記の上限は、USB機器、メモリーカードのファイル構造の状態によっても異なります。

次のページにつづく

- 本機が対応するファイルフォーマットは次のとおりです。
  - MP3：拡張子「.mp3」
  - WMA：拡張子「.wma」
  - AAC：拡張子「.m4a」
  - MPEG4：拡張子「.mp4」または「.avi」
  - MPEG2/MPEG1：拡張子「.mpg」
  - Motion JPEG：拡張子「.avi」
  - JPEG：拡張子「.jpg」または「.jpeg」

  上記に該当する拡張子をファイル名が持っていても、フォーマットが異なっている場合には、本機では再生できないか、再生時に不具合が生じるおそれがあります。特に、オーディオファイルやビデオファイルが本機での再生に適さない場合、大音量のノイズとなり、スピーカーや本機の故障の原因となることがあります。
- 次のような場合、再生が始まるまでにしばらく時間がかかることがあります。
  - USB機器またはメモリーカード上のファイル構造が極端に複雑になっている。
  - USB機器やメモリーカード上のフォルダー数やファイル数が非常に多い。
  - ほかのフォルダー内の曲やファイルを再生した直後での再生開始
  - AACファイルを再生したとき
- MP3ファイル作成時に使用したエンコードソフトウェアによっては、MP3ファイルの再生に時間がかかることがあります。
- 本機が認識可能な最大階層（フォルダーレベル）は、8階層です。
- ファンクションを切り換えると、レジューム再生（つづき再生）はキャンセルされます。
- お使いのUSB機器、メモリーカードのすべての機能を保障するものではありません。
- 再生の順番は、USB機器やメモリーカードにファイルやフォルダーを記録したときの順番とは異なることがあります。
- オーディオファイル、ビデオファイル、画像ファイルがないフォルダーは、再生時にスキップされます。

USB機器のメモリーを選ぶには

内部メモリーとメモリーカードなど、USB機器によっては、2つ以上のメモリーを持つ機器があります。そのような場合、どちらのメモリーから再生するかを選ぶことができます。
再生中はメモリーの選択はできません。メモリーを切り換えたいときは、再生をはじめる前にメモリーの選択を行ってください。

1. **USB機器を本体の⭠USBメモリーに接続する。**
2. **ホームメニューの「設定」を選び、決定ボタンを押す。**
3. **↑/↓ボタンで「USBメモリー選択」を選び、決定ボタンを押す。**
   設定画面が表示されます。
4. **↑/↓ボタンでメモリー番号を選び、決定ボタンを押す。**

USB機器、メモリーカードのコンテンツを再生する

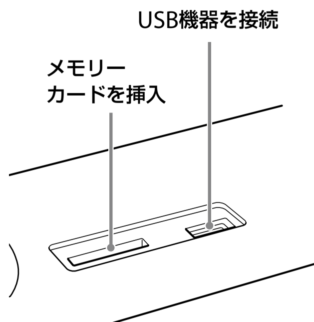
別売りのUSB機器やメモリーカードを本機に接続することで、音楽や音声データ、画像ファイル、ビデオファイルを再生することができます。
本機が対応するファイルフォーマットは、オーディオファイルはMP3*/WMA*/AAC*形式、ビデオファイルは、MPEG4*/MPEG2/MPEG1/Motion JPEG形式、画像ファイルは、JPEG形式です。

* DRM（Digital Rights Management、デジタル著作権管理）によって著作権保護されているファイルは再生できません。

1 USB機器またはメモリーカードをセットする。

USB機器の場合
USBメモリーに接続する。

メモリーカードの場合
メモリーカードスロットに挿入する。



2 ホームメニューの「USB」または「メモリーカード」を選び、決定ボタンを押す。

3 コンテンツタイプ（「ミュージック」／「フォト」／「ビデオ」）を選び、決定ボタンを押す。
「フォルダー一覧」画面が表示されます。

4 ↑/↓ボタンでフォルダーを選ぶ。

5 決定ボタンを押す。
「ファイル一覧」画面が表示されます。

例：MP3ファイルの「ファイル一覧」画面



6 ↑/↓ボタンで再生したいトラックまたはファイルを選ぶ。
再生がスタートします。
再生するファイルがJPEG画像ファイルの場合には、選択したファイルからスライドショーがスタートします。
再生を停止するときは、■ボタンを押してください。

USB機器／メモリーカード

次のページにつづく

サムネイル表示画面からスライドショーをスタートするには

（JPEG画像ファイルのみ）

「ファイル一覧」画面が表示されているときに画面表示ボタンを押すと、「ファイル一覧」からサムネイル表示に画面を切り換え、スライドショーをスタートすることができます。

1 JPEG画像ファイルの「ファイル一覧」画面が表示されているときに、画面表示ボタンを押す。
選択したフォルダー内の最初の18個のJPEG画像のサムネイル表示画面（縮小画面）が表示されます。19個以上の画像がある場合には、画面の右側にスクロールバーが表示されます。



2 ↑/↓/←/→ボタンで表示したい画像ファイルを選び、決定ボタンを押す。
選択したファイルからスライドショーがスタートします。
「ファイル一覧」画面に戻したいときは、サムネイル表示画面が表示されているときに画面表示ボタンを押してください。

スライドショーの速さを変えるには

（JPEG画像ファイルのみ）

1 ホームメニューの「設定」を選び、決定ボタンを押す。

2 「スライドショー間隔」を選び、決定ボタンを押す。
設定画面が表示されます。

3 ↑/↓ボタンで設定を選ぶ。
お買い上げ時の初期設定は、「7 秒」です。スライドショー機能を使わないときは、「オフ」を選んでください。スライドショー機能を「オフ」にすると、←/→ボタンで操作してJPEG画像をひとつずつ表示できます。

ご注意

- スライドショーの速さは、選択しているスライドショーの効果（67ページ）や、個々のJPEG画像ファイルのファイルサイズによっても変わります。
- JPEG画像ファイルによっては、選択した表示間隔よりも表示間隔が長くなる場合があります。特に、プログレッシブJPEG画像ファイルや300万ピクセル以上のJPEG画像ファイルでスライドショーを行う場合、画像ファイルそのものの表示に負荷がかかるため、スライドショーの表示間隔も設定よりも長くなります。

スライドショーの効果を変えるには

（JPEG画像ファイルのみ）

1 ホームメニューの「設定」を選び、決定ボタンを押す。

2 「スライドショー効果」を選び、決定ボタンを押す。
設定画面が表示されます。

3 ♠/♣ボタンで設定を選ぶ。
お買い上げ時の初期設定は、下線の項目です。
- 「なし」：スライド効果を使いません。
- 「クロスフェード」：フェードイン/フェードアウト効果で現在の画像が次の画像に変わります。
- 「垂直ブラインド」：ブラインド効果（縦）で現在の画像が次の画像に変わります。
- 「水平ブラインド」：ブラインド効果（横）で現在の画像が次の画像に変わります。
- 「垂直ワイプ」：上から下へと押し出すかたちで現在の画像が次の画像に変わります。
- 「水平ワイプ」：左から右へと押し出すかたちで現在の画像が次の画像に変わります。
- 「モザイク」：選択したフォルダー内の画像がモザイク状に表示されます。
- 「ランダム」：ランダム（無作為）に選ばれたスライド効果が適用されます。

画像ファイルの表示サイズを変えるには

（JPEG画像ファイルのみ）

1 ホームメニューの「設定」を選び、決定ボタンを押す。

2 「フォト表示モード」を選び、決定ボタンを押す。
設定画面が表示されます。

3 ♠/♣ボタンで設定を選ぶ。
お買い上げ時の初期設定は、下線の項目です。
- 「ノーマル」：オリジナルの縦横比を保ったまま最大限拡大表示します。画面いっぱいに表示するために、上下左右にマージンが表示されます。
- 「フル」：画像を引き伸ばして画面いっぱいに表示します。

次のページにつづく

その他の操作

こんなときは	操作
次のフォルダーのオーディオファイル、ビデオファイルを再生する	▶▶Iボタンを繰り返し押し、再生中のフォルダーの最後のトラックで▶▶Iボタンを一度押す。元のフォルダーに戻りたいときは、「フォルダー一覧」画面でフォルダーを選択してください。
「ファイル一覧」の画面から「フォルダー一覧」の画面に戻る	戻る ボタン(本体では戻るボタン)を押す。
フォルダーを選ぶ	再生中、一時停止中、停止中に +/−ボタンを繰り返し押す。

ちょっと一言

ビデオファイルやスライドショーの再生中に画面表示ボタンを押すと、ステイタスバーが一定時間表示されます。

USB機器の取りはずしかた

1 ■ボタンを押して再生を停止する。

2 USB機器を本機から取りはずす。

メモリーカードの取りはずしかた

1 ■ボタンを押して再生を停止する。

2 メモリーカードを引き抜いて本機から取りはずす。

プレイモードを使う

USB機器またはメモリーカードの曲やビデオ、画像の再生に対して、オプションメニューを使ってプレイモードを設定することができます。
設定できるファイルは、MP3/WMA/AAC形式のオーディオファイル、MPEG4/MPEG2/MPEG1/Motion JPEG形式のビデオファイル、JPEG形式の画像ファイルです。

1 オプションボタンを押し、オプションメニューを表示する。

2 ↑/↓ボタンで「再生モード」を選び、決定ボタンを押す。

3 ↑/↓ボタンで設定を選ぶ。

- 「ノーマル」:USB機器またはメモリーカードのファイルすべてを順番に再生します。
- 「シャッフル」:USB機器またはメモリーカードのファイルすべてを対象に、順不同でシャッフル再生します。
- 「フォルダー」:USB機器またはメモリーカードの再生中のフォルダー内のファイルを順番に再生します。
- 「フォルダーシャッフル」:USB機器またはメモリーカードの再生中のフォルダー内のファイルを対象に、順不同でシャッフル再生します。

4 **決定ボタンを押す。**

5 **戻る ボタン（本体では戻るボタン）を2度押し、再生画面に戻る。**

再生中にプレイモードを変更したときは、選択したプレイモードに切り換わって再生が続行します。一時停止状態、停止中にプレイモードを変更したときは、❚❚ボタンまたは►ボタン、■ボタン（レジューム再生時）を押して再生を再開してください。

ご注意

シャッフル再生では、同じファイルが繰り返し再生されることがあります。

リピートモードを使う

USB機器またはメモリーカードの曲やビデオ、画像の再生に対して、オプションメニューを使ってリピートモードを設定することができます。
設定できるファイルは、MP3/WMA/AAC形式のオーディオファイル、MPEG4/MPEG2/MPEG1/Motion JPEG形式のビデオファイル、JPEG形式の画像ファイルです。
シャッフル再生などプレイモードと組み合わせて使うこともできます。

1 **オプションボタンを押し、オプションメニューを表示する。**

2 **↑/↓ボタンで「リピート」を選び、決定ボタンを押す。**

3 **↑/↓ボタンで設定を選ぶ。**

- 「オフ」：リピート再生機能を使いません。
- 「1」：再生中のファイルを繰り返し再生します。
- 「すべて」：再生モードの選択にしたがってファイルを繰り返し再生します。

4 **決定ボタンを押す。**

5 **戻る ボタン（本体では戻るボタン）を2度押し、再生画面に戻る。**

再生中にリピートモードを変更したときは、選択したリピートモードに切り換わって再生が続行します。一時停止状態、停止中にリピートモードを変更したときは、❚❚ボタンまたは►ボタン、■ボタン（レジューム再生時）を押して再生を再開してください。

好みの音に変える

こんなときは	操作
低音を強調する（MEGA BASS）	M.BASSボタンを繰り返し押す。 ボタンを押すたびにオン/オフが切り換わります。
サウンド効果を選ぶ	イコライザボタンを繰り返し押す。 ボタンを押すたびに、ステイタスバーの表示が以下のとおり切り換わります。 ROCK → POP → JAZZ → DANCE → SOUL → TECHNO → HIP HOP → FLAT …

ちょっと一言

- MEGA BASSの効果は、ホームメニューの「設定」を使ってオン/オフを設定することもできます。次の手順で設定してください。
  「設定」→ 決定ボタン →「MEGA BASS」→ 決定ボタン →「オン」または「オフ」を選択 → 決定ボタン
- サウンド効果は、ホームメニューの「設定」を使って設定することもできます。次の手順で設定してください。
  「設定」→ 決定ボタン →「イコライザ」→ 決定ボタン → サウンド効果を選択 → 決定ボタン

音場効果を設定する

本機にプログラムされているサウンドフィールド（音場効果）を選ぶだけで、映画鑑賞のときなど臨場感溢れるサラウンド効果を手軽に楽しめます。

サウンドフィールドボタンを繰り返し押す。

ボタンを押すたびに、サウンドフィールドが次のとおり切り換わります。

スピーカーからサウンドを出力するとき

2CHステレオ

本機のすべてのファンクションで設定できるステレオ効果を適用する標準のサウンドフィールドです。
例えば、DVDビデオを視聴するときなどは、マルチチャンネルの音声信号から2チャンネルのステレオ効果を再現します。
ステレオ信号のみで、マルチチャンネルの音声信号を持っていない音源では、オリジナルのステレオ出力となります（CD-DAの音楽CDやMP3ファイル、USB機器やメモリーカードのMPEG4ビデオファイルのオーディオ信号などがこれに該当します）。

2CHサラウンド

本機のすべてのファンクションで設定できるサラウンド効果を適用するサウンドフィールドです。DVDビデオなど、マルチチャンネルの音声信号を持つ音源に対してサラウンド効果を適用し、ステレオ出力します。

バーチャルA* (DVDファンクションのみ)

2本のフロントスピーカーによるステレオ環境から、擬似的に3本のサラウンドスピーカーの音響を再現します（バーチャルサラウンド効果）。音源がマルチチャンネルの音声信号を持つ場合のみ設定できます。

バーチャルB* (DVDファンクションのみ)

2本のフロントスピーカーによるステレオ環境から、擬似的に1本のサラウンドスピーカーの音響を再現します（バーチャルサラウンド効果）。音源がマルチチャンネルの音声信号を持つ場合のみ設定できます。この設定は、2本のフロントスピーカーの設置間隔が狭い場合に推奨します。

ヘッドホン出力のとき

HPステレオ

ヘッドホン出力に対してステレオ効果を適用する標準のサウンドフィールドです。

HPサラウンド

ヘッドホン出力に対してサラウンド効果を適用するサウンドフィールドです。

HPバーチャル* (DVDファンクションのみ)

ヘッドホン出力に対してバーチャルサラウンド効果を適用するサウンドフィールドです。音源がマルチチャンネルの音声信号を持つ場合のみ設定できます。

* スタンバイモード時は選択できません。

ご注意

再生するディスクによっては、サウンドフィールドの効果が得られない場合があります。

MP3 Booster＋を設定する

MP3形式、WMA形式、AAC形式のオーディオファイルの再生時の音質を改善します。

1 ホームメニューの「設定」を選び、決定ボタンを押す。

2 「MP3 Booster+」を選び、決定ボタンを押す。

設定画面が表示されます。

3 ↑/↓ボタンで設定を選び、決定ボタンを押す。

お買い上げ時の初期設定は、下線の項目です。

- オート：オーディオファイルの再生をスタートすると、自動的にMP3 Booster＋の効果が有効になります。
- オフ：MP3 Booster＋機能を使いません。

その他の機能

同時再生機能を楽しむ

曲やラジオ放送、外部入力機器からのオーディオ入力といった音源と、USB機器、メモリーカードに記録された画像ファイルを同時にスライドショーとして再生することができます。

1 音源を再生する。

CD-DAディスクまたはMP3ディスクを音源にする場合

"ディスクを再生する"(34ページ)の手順にしたがって、ディスクを再生してください。

USB機器またはメモリーカードを音源にする場合

"USB機器、メモリーカードのコンテンツを再生する"(65ページ)の手順にしたがって、オーディオファイルを再生してください。

"ウォークマン"のオーディオファイルを音源にする場合

""ウォークマン"のコンテンツを再生する"(59ページ)の手順にしたがって、オーディオファイルを再生してください。

ラジオ放送を音源にする場合

"ラジオを聞く"(57ページ)の手順にしたがって、ラジオ放送を受信してください。

外部入力機器のオーディオ入力を音源にする場合

"外部入力機器の映像と音声を視聴するには"(80ページ)の手順にしたがって、接続した機器の再生をスタートしてください。

2 オプションボタンを押し、オプションメニューを表示する。

3 「フォト選択」を選び、決定ボタンを押す。

4 「USB」または「メモリーカード」を選び、決定ボタンを押す。



5 画像ファイルを選択する。

"USB機器、メモリーカードのコンテンツを再生する"(65ページ)の手順にしたがって、JPEG画像ファイルを選択してください。
JPEG画像ファイルを選択すると、音源をBGMにスライドショーがスタートします。

ご注意

同時再生機能を使うときは、必ず先に音源をスタートしてください。画像の表示中に音源を選択して同時再生することはできません。

ちょっと一言

オプションメニューの「スライドショー開始」を使うと、最後に同時設定を行った同じ設定で簡単に同時再生をスタートできます。

タイマーを使う

本機のタイマー機能には、スリープタイマー、再生タイマーの2種類があります。
再生タイマーが働いているときにスリープタイマーを使うと、スリープタイマーが優先されます。

スリープタイマー

指定した時間が経過すると、自動的に本機の電源が切れます。
スリープタイマーは、本機の時計を合わせていない状態でも使用できます。

1 スリープボタンを押し、決定ボタンを押す。

設定画面が表示されます。

2 ↑/↓ボタンを繰り返し押し、設定時間を選ぶ。

スリープタイマーを使わないときは「オフ」を選んでください。

3 「セット」を選び、決定ボタンを押す。

再生タイマー

指定した時刻に自動的に音源をスタートさせ、音楽やラジオを聞くことができます。再生タイマーで音源として設定できるファンクションは、「CD/DVD」、「USB」、「チューナー」、「メモリーカード」です。
再生タイマーを設定する前に、本機の時計を合わせてください。

1 音源を準備する。

ディスクをセットする、USB機器やメモリーカードを接続するなど音源を準備してください。ラジオ放送を音源にするときは、周波数を合わせておきます。なお、音源の準備の際は音量＋/－ボタンで音量も調節してください。

2 ホームメニューの「設定」を選び、決定ボタンを押します。

3 「タイマー」を選び、決定ボタンを押す。

設定画面が表示されます。



4 再生タイマーの設定をする。

「オン時間」と「オフ時間」の設定

再生タイマーの開始時刻と終了時刻をセットします。
「AM」、「PM」は、「12/24時間表示選択」で「12 時間」を選んでいる場合のみの設定項目です（33ページ）。

「ファンクション」の選択

音源とするファンクションを選択します。「チューナー」ファンクションでは、FM、AMの選択、登録している場合には放送局のプリセット番号を選択できます。

再生タイマーのオン/オフの設定

再生タイマーを使う場合には「オン」、使わない場合には「オフ」を選択します。

5 「セット」を選び、決定ボタンを押す。

6 電源ボタン（本体ではI/⏻ ボタン）を押して、電源を切る。

タイマー開始時刻の約30秒前に自動的に電源が入ります。開始時刻に電源が入っていると、再生タイマーは働きません。

電源が入り音源の再生が始まるまで、本機の操作はしないでください。

再生タイマーの設定を確認するには

ホームメニューの「設定」を選び、「タイマー」の項目で確認してください。「タイマー」の項目の右側に、現在の再生タイマーの設定が表示されます。

再生タイマーの設定を変更するには

再生タイマーの設定を手順1からやり直してください。

再生タイマーを中止するには

手順４の「再生タイマーのオン/オフの設定」で、「オフ」を選んでください。

ご注意

再生タイマーの開始時刻に本機の電源が入っていると、再生タイマーが働きません。開始時刻の120秒前までには、本機の電源を切るようにしてください。

ちょっと一言

- スリープタイマーは、ホームメニューの「設定」から設定することもできます。「設定」の「Sleep」を選ぶと、リモコンのスリープボタンを押したときと同じ設定画面が表示されます。スリープタイマーの設定手順（73ページ）の手順2と3にしたがって、設定してください。
- 手動で中止しないかぎり、再生タイマーの設定は保持されます。

ディスクの情報を見る

コントロールメニューの「時間」画面で確認する

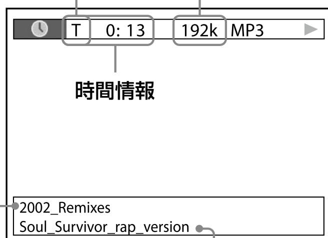
「CD/DVD」ファンクションでディスクを再生しているときに「時間」画面を表示すると、DVDビデオやビデオCDなどさまざまなディスクの情報を確認することができます。
音楽CDのCD-DAトラックやMP3ディスクのMP3ファイルを再生しているときは、「時間」画面に加え、CD再生画面でも情報を確認することができます。CD再生画面での情報確認については、"CD再生画面で情報を確認する"（76ページ）をご覧ください。

ディスクの再生中に時間/テキストボタンを繰り返し押す。

時間/テキストボタンを繰り返し押すたびに、表示は次のとおり切り換わります。

① → ② → … → ① → …

表示される情報は、再生するディスクによって異なります。
CD再生画面が表示されているときは、あらかじめ画面表示ボタンでコントロールメニュー画面に切り換えてから（26ページ）、時間/テキストボタンを押してください。



DVDビデオまたはDVD-R/DVD-RW（VRモード）再生のとき

① 現在のタイトルの経過時間
② 現在のタイトルの残り時間
③ 現在のチャプターの経過時間
④ 現在のチャプターの残り時間
⑤ 現在のタイトルの経過時間とディスク名

ビデオCD（PBC再生）のとき

① 現在のシーンの経過時間
② 現在のシーンの経過時間とディスク名

その他の機能

次のページにつづく

音楽CD（CD-DA）またはビデオCD（PBC再生以外）のとき

① 現在のトラックの経過時間
② 現在のトラックの残り時間
③ ディスクの経過時間
④ ディスクの残り時間
⑤ 現在のトラックの経過時間とトラック名

データCDまたはデータDVDのMP3ファイル再生のとき

現在のファイルの経過時間とフォルダー名/ファイル名

CD再生画面で情報を確認する

CD-DAトラック、MP3ファイルの再生中または一時停止中は、CD再生画面でも情報を確認することができます。曲の再生中または一時停止中に時間/テキストボタンを繰り返し押すと、表示は次のとおり切り換わります。

① → ② → … → ① → …



音楽CD（CD-DA）再生のとき

① 現在のトラックの経過時間
② 現在のトラックの残り時間
③ ディスクの経過時間
④ ディスクの残り時間
⑤ トラック名

データCDまたはデータDVDのMP3ファイル再生のとき

① 現在のファイルの経過時間
② 現在のファイル名

ご注意

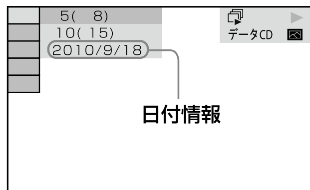
- 作成したデータCDが、ISO9660レベル1/レベル2、Joliet拡張規格のいずれの論理フォーマットにも準拠していない場合、ディスクに記録されているMP3ファイルのファイル名やフォルダー名が正しく表示されないことがあります。
- 本機のCD再生画面で表示できる文字は、アルファベット、数字、いくつかのシンボル記号のみです。日本語は表示できません。
- 再生するディスクによっては、表示される文字が限定されます。

ちょっと一言

本機は、ID3のバージョン1.0/1.1/2.2/2.3に対応しており、MP3ファイルにID3タグが記録されているときは、ID3タグ情報のアルバム名、タイトル名を表示します。
ID3のバージョン1とバージョン2のタグが混在して使われている場合は、バージョン2のタグ情報が優先的に表示されます。

JPEG画像ファイルの日付情報を見る

Exif*情報が記録されているJPEG画像ファイルを再生しているときに画面表示ボタンを押すと、コントロールメニュー画面で日付情報を確認することができます。



* Exif（Exchangeable Image File Format）は、日本電子工業振興会が制定したデジタルカメラ用画像ファイルフォーマット規格です。

カレンダー /時計機能を使う

ホームメニューの「カレンダー /時計」機能を使うと、本機を卓上カレンダーや置き時計のように使うことができます。

「カレンダー /時計」を選び、決定ボタンを押す。

カレンダーが表示されます。カレンダー表示とアナログ時計表示を切り換えるときは、画面表示ボタンを繰り返し押してください。カレンダー表示で月を進めたり戻したりするには、➡ボタンと⬅ボタンで操作します。

カレンダー表示の場合も、デジタル時計形式の時計表示がありますので、お好みでカレンダー表示とアナログ時計表示を切り換えてご利用ください。

カレンダー表示



アナログ時計表示



その他の機能

次のページにつづく

音楽の再生中に時計を表示するには

1 **音楽の再生中にオプションボタンを押し、オプションメニューを表示する。**

2 **「時計表示」を選び、決定ボタンを押す。**

その他の設定

「設定」メニューのその他の設定

ホームメニューの「設定」では、輝度やビープ音などを設定することができます。
お買い上げ時の初期設定は、下線の項目です。

こんなときは	操作
液晶ディスプレイの明るさを変える	**1 「画面の明るさ」を選び、決定ボタンを押す。** **2 ▲/▼ボタンで設定を選び、決定ボタンを押す。** • 「オート」 • 「1」 • 「2」 • 「3」
タッチセンサーボタン（本体前面）の明るさを変える	**1 「キーの明るさ」を選び、決定ボタンを押す。** **2 ▲/▼ボタンで設定を選び、決定ボタンを押す。** • 「オフ」 • 「1」 • 「2」 • 「3」

こんなときは	操作
ソニーロゴ(本体前面)の明るさを変える	**1** **「イルミネーション」を選び、決定ボタンを押す。** **2** **↑/↓ボタンで設定を選び、決定ボタンを押す。** • 「オフ」 • 「オン」
タッチセンサーボタンのビープ音を調整する	**1** **「ビープ音」を選び、決定ボタンを押す。** **2** **↑/↓ボタンで設定を選び、決定ボタンを押す。** • 「オフ」 • 「1」 • 「2」 • 「3」

液晶ディスプレイのスクリーンモードの設定

液晶ディスプレイのスクリーンモードをオプションメニューから切り換えることができます。スクリーンモードは、「CD/DVD」、「ウォークマン」、「Video Input」、「SAT Input」のファンクションを使って映像を表示しているときのみ切り換えることができます。
お買い上げ時の初期設定は、下線の項目です。

1 **映像が表示されているときにオプションボタンを押し、オプションメニューを表示する。**

2 **↑/↓ボタンで「ワイドモード」を選び、決定ボタンを押す。**

3 **↑/↓ボタンで設定を選び、決定ボタンを押す。**
- 「ワイド」：16:9のワイドモードで全画面表示します。
- 「ノーマル」：画面の左右に黒い帯がついた状態で16:9の縦横比で表示します（映像の表示エリアは4:3の縦横比）。

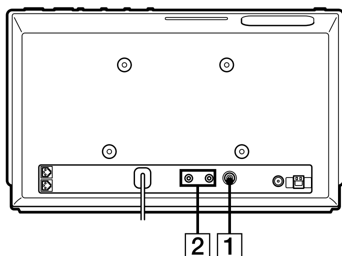
ご注意

映像の出力ソース側で表示モードが固定となっている場合など、スクリーンモードの切り換えが反映しないことがあります。

外部入力機器/外部出力機器をつなぐ

市販の接続コードを使って、ビデオデッキやCSチューナー、BSチューナーなどの外部入力機器をつないで視聴したり、テレビやプロジェクターをつないでDVDの映像などを外部出力して視聴することができます。

後面



1 映像出力端子（DVD VIDEO OUT）

テレビやプロジェクターなどの外部出力機器の映像入力端子とつなぎます。

ご注意

- テレビやプロジェクターへの映像出力は、DVDビデオやビデオCD、画像や映像データが記録されたデータCD、データDVDなどを、「CD/DVD」ファンクションで再生する場合のみとなります。
- "ウォークマン"、USB機器、メモリーカードの映像は、テレビやプロジェクターには出力できません。本機の液晶ディスプレイへの出力のみとなります。

2 音声入力端子、映像入力端子（VIDEO/SAT AUDIO IN、VIDEO/SAT VIDEO IN）

ビデオデッキやBS/CSチューナーなどの外部入力機器の映像出力端子、音声出力端子とつなぎます。

外部入力機器の映像と音声を視聴するには

1 ホームメニューの「Video Input」または「SAT Input」を選び、決定ボタンを押す。

ホームメニューの「Video Input」、「SAT Input」の表示は、「外部入力」の設定によって変わります。接続する機器に応じて設定を変更してください。詳しくは、"外部入力機器の入力ソースを切り換えるには"（81ページ）をご覧ください。

2 接続している機器の再生を開始する。

接続している機器の電源を入れ、再生が必要な場合には開始してください。

外部入力機器の入力ソースを切り換えるには

1 ホームメニューの「設定」を選び、決定ボタンを押す。

2 「外部入力」を選び、決定ボタンを押す。

設定画面が表示されます。

3 ↑/↓ボタンで「Video」または「Satellite」を選び、決定ボタンを押す。

ビデオデッキなどの外部入力機器の場合は「Video」を、BSチューナーやCSチューナーなどの衛星放送受信機をつないで利用する場合は、「Satellite」を選んでください。

ご注意

「Video」の設定で音声が歪んだり、大きすぎる場合は、「外部入力」の設定を「Satellite」に切り換えてください。

使用上のご注意

ディスクのお手入れと保存のしかた

- ふだんのお手入れは、柔らかい布でディスクの中心から外の方向へ軽く拭きます。
- ベンジンやシンナー、静電気防止剤などはディスクを傷めることがありますので使わないでください。
- 市販のレンズクリーナーやディスククリーナー（湿式またはスプレー式）を使わないでください。故障するおそれがあります。
- 直射日光が当たる場所、車やトランクの中など、高温になるところには置かないでください。

DVDの地域番号（リージョンコード）について

DVDビデオのパッケージには地域番号が表示されています。地域番号に「ALL」（ALL）または「2」（2）が含まれているときは、本機で再生可能です。これら以外の地域番号のDVDは再生できません。パッケージに地域番号が表示されていないDVDビデオもありますが、再生不可の地域番号のDVDビデオを再生しようとしたときには、「このディスクは地域制限により再生を禁止されています」のメッセージが表示されます。

DualDiscご使用においてのご注意

DualDiscとはDVD規格に準拠した面と、音楽専用面とを組み合わせた新しい両面ディスクです。なお、この音楽専用面はコンパクトディスク（CD）規格には準拠していないため、本製品での再生は保証いたしません。

CD-R/CD-RW/DVD-R/DVD-RW/DVD+R/DVD+RWについてのご注意

- 本機はお客様が作成したCD-R/CD-RW/DVD-R/DVD-RW/DVD＋R/DVD＋RWディスクを再生できます。ただし、データの記録に使ったレコーダーの特性、ディスク自体の品質や記録品質、データの記録に使用した書き込みソフトウェアの仕様などによって正常に再生できないことがあります。
- 終了情報を記録するファイナライズ処理を行っていないディスクは再生できません。
- 正しくファイナライズ処理を行っていても、作成したDVD＋R/DVD＋RWディスクによっては、映像の通常再生のみに限定されるなど、本機のDVDファンクションの機能の一部が利用できないことがあります。
- パケットライト方式の記録方式で作成されたディスクは再生できません。

DVDビデオ、ビデオCDの再生操作について

DVDビデオやビデオCDは、ソフト制作者の意図により再生状態が決められていることがあります。本機ではソフト制作者が意図したディスク内容にしたがって再生を行うため、操作したとおりに機能が働かない場合があります。再生するディスクに付属の説明書も必ずご覧ください。

CD再生時のご注意

本製品は、コンパクトディスク(CD)規格に準拠した音楽ディスクの再生を前提として、設計されています。最近、いくつかのレコード会社より著作権保護を目的とした技術が搭載された音楽ディスクが販売されていますが、これらの中にはCD規格に準拠していないものもあり、本製品で再生できない場合があります。

マルチセッションCDについて

- 最初のセッションが、CD-DAフォーマットまたはビデオCDフォーマットで記録されている場合には、最初のセッションだけを再生します。
- 複数のセッションの内、CD-DAフォーマットで記録されたセッションがある場合にはCD-DAディスクとして認識しますが、最初のセッションがCD-DAフォーマットの場合のみ再生することができます。
- MP3ファイルやJPEG画像ファイルがディスクの最初のセッションに記録されているときは、そのほかのセッションに記録されたこれらの形式のファイルも再生します。

メモリーカードの取り扱いかた

- 強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 分解したり、改造したりしないでください。
- 水にぬらしたりしないでください。
- 以下のような場所での使用や保存はしないでください。
  - 炎天下や夏場の窓を閉め切った車の中/直射日光のあたる場所/熱器具の近く
  - 湿気の多い場所や腐食性のある場所
- 小さいお子様の手の届くところに置かないようにしてください。誤って飲み込む恐れがあります。

設置時のご注意

- 本機の上に重いものを置かないでください。
- 特殊な塗装、ワックス、油脂、溶剤などが塗られている場所に、本機およびスピーカーを設置すると、変色、染みなどが残ることがあります。

ステレオを聞くときのエチケット



ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さめな音でも周囲にはよく通るものです。
窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。
このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

その他

次のページにつづく

正常な使用状態で本製品に故障が生じた場合、当社は本製品の保証書に定められた条件にしたがって修理を致します。ただし、本製品の故障、誤動作または不具合により、再生などにおいて利用の機会を逸したために発生した損害等の付随的損害の補償については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

結露について

部屋の暖房を入れた直後など、コントロールユニット内のレンズに水滴がつくことがあります。これを結露といいます。正常に動作しないばかりでなく、ディスクや部品を傷めることがあります。本機を使わないときは、ディスクを取り出しておいてください。結露が生じたときは、ディスクを取り出して、電源を入れたまま約30分放置し、再び電源を入れ直してからお使いください。もし何時間たっても正常に動作しないときは、ソニーの相談窓口にご相談ください。

使用時の放熱について

- 使用中、本体の温度が上昇することがありますが、故障ではありません。
- 大音量で長時間再生するなどすると、本体キャビネットの天板や側面、底面、通風孔はかなり熱くなります。このようなときは、火傷などのけがの原因となるため、キャビネットなどに触れないでください。
- 温度上昇による故障の原因となるため、通風孔をふさがないでください。

液晶画面(LCD)についてのご注意

- 液晶画面に表示されるイメージは、例えば、色や画質において印刷イメージと同一ではありません。これは液晶画面への表示と印刷では、画質やカラーの表現手法や設計手法が異なるためです。意図した画質や色で表示されないことがありますが、故障ではありません。
- 液晶画面を強く押したり、ひっかいたりしないでください。画面にむらが出たり、液晶パネルの故障の原因になります。
- 液晶画面を太陽にむけたままにすると、液晶画面を傷めてしまいます。設置の際には向きや場所(窓際など)にご注意ください。
- 画面上に赤や青、緑の点(輝点)が消えなかったり、黒い点(滅点)が表れたりしますが、故障ではありません。液晶画面は非常に精密な技術で作られており、99.99%以上の有効画素がありますが、ごくわずかの画素欠けや常時点灯する画素があります。
- 寒い所でお使いになると、画像が尾を引いて見えたり、画面が暗く見えたりすることがありますが、故障ではありません。温度が上がると元に戻ります。

テレビの色むらについて

本機のスピーカーは防磁型ではありません。そのため、スピーカーをテレビのそばに設置するとテレビ画面に色むらが起こる場合があります。スピーカーは、テレビから離して設置してお使いください。色むらが起きたときは、いったんテレビの電源を切り、15 ～ 30分後に再び電源を入れてください。それでも色むらが残る場合は、スピーカーをさらにテレビから離してください。

テレビ画面の残像現象(画像の焼きつき)についてのご注意

一時停止した映像の1シーン、DVDメニューやタイトルメニュー、ビデオCDのメニュー、本機のコントロールメニューの画面など、同じ状態の画面を表示したまま長時間放置しないでください。テレビ画面に残像現象(画像の焼きつき)を起こす場合があります。特にプラズマテレビでは残像現象(画像の焼きつき)が起こりやすいのでご注意ください。

本機のお手入れのしかた

- キャビネットやパネル面の汚れは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布で拭いてください。研磨用パッドや研磨剤、シンナーやベンジン、アルコールなどは表面を傷めることがありますので使わないでください。
- 本体前面に付着した指紋や脂分は、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。汚れがひどいときは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布で拭いてください。

故障かな？と思ったら

本機を使用中にトラブルが発生した場合は、ソニーの相談窓口にご相談になる前に、もう一度下記の流れにしたがってチェックしてください。"メッセージ一覧"（100ページ）も合わせてご覧ください。メッセージなどが表示されている場合は、書きとめておくことをおすすめします。

手順1　本書で調べる

この「故障かな？と思ったら」をチェックし、該当する項目を調べる。
本書の手順の中にも、様々な情報があります。該当する項目を調べてください。



手順2　「サポート・お問い合わせ」のホームページで調べる

http://www.sony.co.jp/systemstereo-support/で調べる。
最新のサポート情報や、よくあるお問い合わせとその回答を掲載しています。



手順3　それでもトラブルが解決しないときは

ソニーの相談窓口（裏表紙）またはお買い上げ店にご相談ください。



ご相談になるときは次のことをお知らせください。

- 型名：CMT-L7D
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 故障したときに再生していた音源（ディスクや"ウォークマン"、USB機器、メモリカードなど）：
- 購入年月日：
- お買い上げ店：

オン/スタンバイランプ（赤色ランプ）が点滅しているときは

電源コードをコンセントから抜いて、ただちに以下の項目を確認してください。

- 付属のスピーカーを使っていますか？
- 本機後面の通風孔をふさいでいませんか？
- 交流100V以外のコンセントに接続していませんか？

異常がなければ、オン/スタンバイランプが消灯したことを確認してから、再度電源コードをコンセントにつないでください。オン/スタンバイランプが点滅しなければ、そのままお使いいただけます。

オン/スタンバイランプが点滅したままの場合は、ソニーの相談窓口（裏表紙）またはお買い上げ店にご相談ください。

ウォークマン充電ランプが点滅しているときは

本機の電源が入っているとき

- "「過電流を検出しました」と表示される。"をご覧ください（89ページ）。

本機の電源が切れているとき

- USB機器やメモリーカード、"ウォークマン"を取りはずし、異常がないか確認してください。何らかの原因で過電流が検出されると、機器を保護するために充電ランプが点滅します。症状が改善しないときは、ソニーの相談窓口（裏表紙）またはお買い上げ店にご相談ください。

共通

電源コードをコンセントにつないだあとに、電源を入れていないのにデモ画面が表示される。

- オートデモ機能を「オフ」にしてください（28ページ）。

電源が入らない。

- 電源コードがしっかりコンセントに接続されているか確認してください。

次のページにつづく

電源を入れてからホームメニューの画面が表示されるまでに時間がかかる。

- ホームメニューの画面は、表示されるまでしばらく時間がかかりますが故障ではありません。誤操作となるため、電源ボタン（本体では I/⏻ ボタン）を再度押すなどしないでください。

気がつくと画面が消え、スタンバイモードになっている。

- 本機のオートスタンバイ機能によって、無操作の時間が30分経過するか、音源の再生が停止すると自動的にスタンバイモードに移行します。詳しくは、"オートスタンバイ機能を「オフ」にするには"をご覧ください（99ページ）。

時計やタイマーの設定がリセットされる。

- 電源コードをコンセントから抜いたり停電があったときは、時計の設定やタイマーの設定をやり直してください。詳しくは、"時計を合わせる"（33ページ）、"タイマーを使う"（73ページ）をご覧ください。

スピーカーから音が出ない。

- 音量＋/－ボタンで音量を調節してください。
- ヘッドホンをお使いの場合は、ヘッドホン端子（🎧）からはずしてください。
- スピーカーコードを正しく接続しているか確認してください（27ページ）。
- 一時停止、早送り、早戻し、スロー再生になっていませんか？その場合には、►ボタンを押して再生をスタートさせてください。

ブーンという音（ハム音）がする、ノイズがひどい。

- テレビやビデオデッキなどのノイズの原因になりやすい機器から本機を離して設置してください。
- ノイズフィルター（別売り）の電源コードへの装着をおすすめします。ノイズが低減できる場合があります。

再生タイマーが働かない。

- 設定を確認してください（73ページ）。
- スリープタイマーを設定しているときは、「オフ」にしてください。

リモコンの操作を受け付けない。

- リモコンと本体の間の障害物を取り除いてください。
- 距離が離れすぎていませんか？
本体に近づいて操作してみてください。
- リモコンを本体のリモコン受光部に向けて操作してください。
- リモコンの電池が消耗している可能性があります。新しい電池と交換してください。
- 蛍光灯に近い場所に設置しているときは、本機を蛍光灯から離して設置してください。

音がびりつく。

- 音量を下げてください。

外部入力機器からの音声が歪む。

- 外部入力機器の入力ソースの設定を「Video」から「Satellite」に切り換えてください。詳しくは、“外部入力機器の入力ソースを切り換えるには”（81ページ）をご覧ください。

「過電流を検出しました」と表示される。

- 本体の電源を切り、USB機器やメモリーカード、“ウォークマン”を取りはずし、異常がないか確認してください。何らかの原因で過電流が検出されると、機器を保護するためにこのメッセージが表示されます。症状が改善しないときは、ソニーの相談窓口（裏表紙）またはお買い上げ店にご相談ください。

スピーカー

左右の音のバランスが悪い、または逆転している。

- スピーカーをできるだけ左右対称の位置に設置してください。
- スピーカーコードを正しく接続しているか確認してください（27ページ）。

ディスク

「ロックされています」と表示され、ディスクを取り出せない。

- ソニーの相談窓口（裏表紙）またはお買い上げ店にご相談ください。

再生が始まらない。

- ►ボタンを押してください。
- ディスクがセットされているか確認してください。
- ディスクをいったん取り出し、セットし直してください。
- ディスクが汚れているときは、汚れを拭き取ってください（82ページ）。
- ディスクに水分が付着していませんか？このような場合には、ディスクを取り出し、水分を拭き取ってください。また本体内部の水分を蒸発させるため、電源を入れたまましばらく放置してください。
- DVDビデオは、再生可能な地域番号（リージョンコード）のディスクしか、再生できません。

音飛びする。

- ディスクが汚れているときは、汚れを拭き取ってください（82ページ）。
- ディスクをいったん取り出し、セットし直してください。
- 本体を振動のない安定した場所に設置してください。
- スピーカーを本体から離したり、設置位置を変えてみてください。なお、低音域が重視された音源を大音量で再生すると、スピーカーの振動が発生し、音飛びの原因となることがあります。

再生がディスクの最初から始まらない。

- シャッフル再生、プログラム再生、リピート再生などを設定していませんか？通常の再生に戻してください。

次のページにつづく

- レジューム再生（つづき再生）の場合は、停止したところからの再生になります。はじめから再生したいときは、■ボタンを2回押してから►ボタンを押してください。
- DVDビデオのタイトル画面やビデオCDのPBCのメニューなど、ディスクの機能によって自動的に特定の画面で一時停止となるディスクがあります。

再生が自動的に止まる。

- ビデオCDなど一部のディスクには、オートポーズ信号が記録されているものがあります。そうしたディスクを再生すると、オートポーズ信号が検出された時点で自動的に再生が停止します。

停止や早送り再生、早戻し再生、スロー再生、リピート再生、シャッフル再生、プログラム再生などの操作や設定ができない。

- ディスクによっては、これらの操作や設定を禁止しているものがあります。ディスクに付属の説明書もあわせて確認してください。

作成したデータCD、データDVDを再生できない。

- 作成したデータCDが、ISO9660レベル1/レベル2、Joliet拡張規格のいずれのフォーマットにも準拠していない。
- 作成したデータDVDが、UDF (Universal Disk Format)規格の論理フォーマットに準拠していない。
- ファイル名の拡張子が間違っているか、付いていない。本機が対応する拡張子は次のとおりです。
  - MP3ファイル：「.mp3」
  - JPEG画像ファイル：「.jpg」または「.jpeg」
- MP3形式（MPEG 1 Audio Layer-3）以外のフォーマットでオーディオファイルが作成されている。
- 本機が認識可能なディスクの最大階層（フォルダーレベル）を超えている（8階層まで認識可能）。
- ディスクに記録されているフォルダー数が200を超えている。
- フォルダーあたりのファイル数が150を超えている。
- JPEG画像ファイルのサイズが、画素数で3,072ピクセル（幅）×2,048ピクセル（高さ）を超えている。または、プログレッシブJPEG形式で、画素数が200万画素を超えている。
- 本機が対応するデータ形式ではない。
- コントロールメニュー画面の「ミュージック/フォト」の優先設定を確認してください。優先設定が反映されないときは、ディスクをセットし直してみたり、本機の電源を入れ直してみてください。

他のファイルに比べMP3ファイルの再生に時間がかかる。

- データCD、データDVDに記録されたすべてのMP3ファイルの情報を読み出すため、次のようなケースでは、再生が始まるまでに時間がかかることがあります。
  – フォルダーの数、MP3ファイルの数が多すぎる。
  – ディスクのファイル構造が極端に複雑になっている。

データCD、データDVDの再生時に「データエラーです」が表示される。

- 再生対象のファイルが破損している。
- オーディオファイルが、MP3形式（MPEG 1 Audio Layer-3）で作成されていない。
- JPEG画像ファイルがDCF規格に準拠していない。
- ファイル名の拡張子が間違っているか、付いていない。本機が対応する拡張子は、次のとおりです。
  – MP3ファイル：「.mp3」
  – JPEG画像ファイル：「.jpg」または「.jpeg」

ディスク名やCD-TEXT/DVD-TEXTディスクのテキスト情報の文字が正しく表示されない。

- ISO9660レベル1/レベル2、Joliet拡張規格以外のフォーマットで作成されたディスクでは、文字が正しく表示されないことがあります。
- 記録されたディスクによっては、テキスト表示できないことがあります。

ドルビーデジタルやMPEGオーディオのサウンドで、サラウンド効果が得られない。

- 選択しているサウンドフィールドを確認してください（70ページ）。
- スピーカーコードを正しく接続しているか確認してください（27ページ）。
- 音声トラックがドルビーデジタルやMPEGオーディオ方式で記録されていても、DVDビデオによっては、音声トラックを5.1チャンネルのマルチチャンネルではなく、ステレオ出力またはモノラル出力で再生するタイプがあります。この場合、サラウンド効果は得られません。

DVDビデオやビデオCD、音楽CDなどがモノラルで出力されているように聞こえる。

- 音声ボタンを押して、音声をステレオにしてください（37ページ）。
- スピーカーコードを正しく接続しているか確認してください（27ページ）。

“ウォークマン”

“ウォークマン”が充電されない。

- “ウォークマン”がしっかり接続されているか確認してください。
- オートデモ機能が有効になっていると、“ウォークマン”は充電されません。オートデモ機能が「オフ」になっているか確認してください(28ページ)。
- 電源が切れているときは、4時間の給電を行い、その後パワー・セービングモードに移行して“ウォークマン”への給電は停止します。
- 充電機能が解除されていないか確認してください。解除されているときは、充電機能を有効にしてください(60ページ)。

“ウォークマン”が正常に動作しない。

- 対応機種以外の“ウォークマン”を使うと、次のような問題が発生するおそれがあります。下記ホームページの機種別サポートで対応機種を確認してください。

  http://www.sony.co.jp/systemstereo-support/

  - “ウォークマン”が本機に認識されない。
  - 曲や映像が再生されない。
  - 音飛びする。
  - ノイズが混じる。
  - 音が歪む。

音が出ない。

- “ウォークマン”が本機にしっかり挿し込まれていますか？本機の電源を切り、“ウォークマン”を接続し直してください。

ノイズ・音飛びが発生する、音が歪む。

- 本機の電源を切り、“ウォークマン”を接続し直してください。
- ファイルそのものにノイズや歪みの原因が混入している可能性があります。ノイズは、エンコードの過程で混入する場合もあります。このようなときは、“ウォークマン”へのデータの転送をやり直してください。コンピュータからのデータの転送のしかたについては、“ウォークマン”の取扱説明書をご覧ください。
- 音量が大きすぎる。音量を調節してください。
- “ウォークマン”のサウンドモードは、ノーマル(フラット)でお使いください。ノーマルモード以外の設定のまま本機で使用すると、音の歪みやノイズの原因となることがあります。

“ウォークマン”が認識されない。

- 本機の電源を切り、“ウォークマン”を接続し直し、再度本機の電源を入れてください。
- 対応機種以外の“ウォークマン”を使っている。下記ホームページの機種別サポートで対応機種を確認してください。

  http://www.sony.co.jp/systemstereo-support/
- “ウォークマン”が正常に動作していない可能性があります。“ウォークマン”の取扱説明書をご覧のうえ、問題が解決しない場合には、ソニーの相談窓口にご相談ください。

再生が始まらない。

- “ウォークマン”のホームメニューで「ミュージック」や「ポッドキャスト」、「ビデオ」など、ライブラリーを選択してから本機に接続し、►ボタンを押してください。
- 本機の電源を切り、“ウォークマン”を接続し直し、再度本機の電源を入れてください。
- 対応機種以外の“ウォークマン”を使っている。下記ホームページの機種別サポートで対応機種を確認してください。

  http://www.sony.co.jp/systemstereo-support/
- 再生を開始しているか確認してください。開始していない場合は、►ボタンを押して再生を開始してください。

再生が最初から始まらない。

- “ウォークマン”の再生モードがシャッフルなどノーマル再生以外のモードにセットされていないか確認してください。“ウォークマン”の再生モードについては、“ウォークマン”の取扱説明書をご覧ください。

USB機器/メモリカード

USB機器、メモリーカードが正常に動作しない。

- 対応機種以外のUSB機器やメモリーカードを使うと、次のような問題が発生するおそれがあります。お使いの機種が対応機種か確認してください（62、63ページ）。
  - USB機器やメモリーカードが本機に認識されない。
  - ファイル名やフォルダー名（アルバム名）が表示されない。
  - ファイルが再生されない。
  - 音飛びする。
  - ノイズが混じる。
  - 音が歪む。

音が出ない。

- USB機器が本機にしっかり挿し込まれていますか？
  本機の電源を切り、USB機器を接続し直してください。
- メモリーカードがしっかり挿入されているか確認してください。

その他

次のページにつづく

ノイズ・音飛びが発生する、音が歪む。

- USB機器が本機にしっかり挿し込まれていますか？
  本機の電源を切り、USB機器を接続し直してください。
- メモリーカードがしっかり挿入されているか確認してください。
- ファイルそのものにノイズや歪みの原因が混入している可能性があります。ノイズは、エンコードの過程で混入する場合もあります。このようなときは、データを新たに作り直してください。
- 音量が大きすぎる。音量を調節してください。
- オーディオファイルやビデオファイルをエンコードする際の、オーディオのビットレートの設定が低すぎることが考えられます。ビットレートの設定を高くして、エンコードしてください。

USB機器が⭠USBメモリー（USB端子）に挿し込めない。

- 向きが逆になっていると⭠USBメモリーに挿し込めません。正しい向きで挿し込んでください。

メモリーカードが挿入できない。

- 向きが逆になっているとメモリーカードスロットに挿入できません。正しい向きで挿し込んでください。

「読みこみ中」と表示され、再生が始まるまで時間がかかる。

- 記録されたすべてのファイルの情報を読み出すため、次のようなケースでは、再生が始まるまでに時間がかかることがあります。
  - フォルダー数、ファイル数が多すぎる。
  - ファイル構造が極端に複雑になっている。
  - ひとつのファイルのファイルサイズが大きすぎる。
  - USB機器やメモリーカードが断片化している。

  USB機器、メモリーカードを本機でお使いの際の目安は、以下のとおりです。
  - フォルダー数：200以下。
  - フォルダーあたりのファイル数：150以下。

ファイル名やフォルダー名（アルバム名）が正しく表示されない。

- USB機器、メモリーカードの再生対象のファイルが破損している可能性があります。ファイルを作り直してください。

USB機器、メモリーカードが本機に認識されない。

- USB機器やメモリーカードが本機にしっかり挿し込まれていますか？
  いったん本機の電源を切って機器を接続し直したのち、本機の電源を入れてください。

- お使いの機種が対応機種か確認してください（62、63ページ）。
- USB機器、メモリーカードに付属の取扱説明書もあわせて確認してください。症状が改善しないときは、ソニーの相談窓口（裏表紙）またはお買い上げ店にご相談ください。

USB機器、メモリーカードのファイルの再生時に「データエラーです」が表示される。

- 再生対象のファイルが破損している。

再生が始まらない。

- USB機器やメモリーカードが本機にしっかり挿し込まれていますか？
  いったん本機の電源を切って機器を接続し直したのち、本機の電源を入れてください。
- お使いの機種が対応機種か確認してください（62、63ページ）。
- ►ボタンを押してください。

再生が最初から始まらない。

- シャッフル再生、プログラム再生、リピート再生などを設定していませんか？通常の再生に戻してください。

USB機器、メモリーカードのファイルを再生できない。

- 本機が対応するファイルシステム*でフォーマットされていない。
- お使いのUSB機器がパーティションで分割されている。パーティションでUSB機器を分割しているときは、最初のパーティションのみが再生対象となります。
- ファイル名の拡張子が間違っているか、付いていない。本機が対応する拡張子は、次のとおりです。
  - MP3ファイル：「.mp3」
  - WMAファイル：「.wma」
  - AACファイル：「.m4a」
  - JPEG画像ファイル：「.jpg」または「.jpeg」
  - MPEG4ビデオファイル：「.mp4」または「.avi」
  - MPEG2/MPEG1ビデオファイル：「.mpg」
  - Motion JPEGビデオファイル：「.avi」
- フォーマットが適切でない。本機が対応するフォーマットは、次のとおりです。
  - オーディオファイル：MP3/WMA/AAC形式
  - 画像ファイル：JPEG形式
  - ビデオファイル：MPEG4/MPEG2/MPEG1/Motion JPEG形式
- ビデオファイル作成時（エンコード時）のビットレートの設定が高い。本機が対応するビットレート（104、105ページ）の設定でエンコードし直してください。

- WMAファイルが、WMA DRM/WMA Lossless/WMA PRO形式で作成されている。本機は、これらの形式に対応していません。
- 著作権保護付きのAACファイル、AAC Lossless形式のAACファイルは本機では再生できません。
- AACファイルが96 kHzのサンプリングレートでエンコードされている。44.1 kHzのサンプリングレートの設定でエンコードしてください。
- JPEG画像ファイルのサイズが、画素数で3,072ピクセル（幅）×2,048ピクセル（高さ）を超えている。または、プログレッシブJPEG形式で、画素数が200万画素を超えている。
- 本機が認識可能な最大階層（フォルダーレベル）を超えている（8階層まで認識可能）。
- USB機器、メモリーカードに記録されているフォルダー数が200を超えている。
- フォルダーあたりのファイル数が150を超えている。
- パスワードでプロテクトされたファイル、暗号化によって保護されたファイルは再生できません。

* 本機が対応するファイルシステムは、「FAT16」と「FAT32」のみです。USB機器の中には、他のFAT形式でフォーマットされたものがありますのでご注意ください。詳しくは、USB機器に付属の取扱説明書で確認するか、USB機器のお買い上げ店またはメーカーにご相談ください。

映像

接続したテレビに映像が出ない。

- 映像出力の接続コードのプラグがしっかり差し込まれているか確認してください。
- 映像出力の接続コードが断線していないか確認してください。断線しているときは、新しいコードに交換してください。
- テレビの入力端子と出力端子を間違えていないか確認してください。入力端子につなぎます。
- テレビの電源が入っているか、操作を間違えていないかなどを確認してください。
- テレビの入力切り換えで本機の映像が映るように切り換えているか確認してください。
- VIDEO/SAT VIDEO IN端子につないだ外部入力機器の映像は、テレビには映りません。

テレビに映った映像が乱れる。

- ディスクが汚れているときは、汚れを拭き取ってください（82ページ）。
- 本機を、ビデオデッキを経由してテレビにつないでいると、一部のDVDプログラムに使われているコピープロテクション信号が画質に悪影響を及ぼす可能性があります。本機とテレビは直接つなぐことをおすすめします（30ページ）。

「ビデオ設定」の「TVタイプ」(54ページ)で設定した「16:9」のアスペクト比(縦横比)で映像が映らない。

- アスペクト比がディスク側で固定されている場合、「TVタイプ」の設定は反映されません。
- お使いのテレビによっては、アスペクト比の変更ができない場合があります。

希望する言語で画面が表示されない。

- CD/DVDファンクションの表示画面については、コントロールメニュー画面の「設定」画面の「言語設定」で、希望の言語を選んでください(54ページ)。
- ホームメニュー画面の表示言語については、ホームメニューの「設定」の「言語」で「日本語」または「English」(英語)から選択できます(33ページ)。

音声言語を変更できない。

- 再生しているDVDに複数の音声言語が記録されていない場合は、音声言語は選べません。
- DVDビデオによっては、音声言語の切り換えを禁止しているものがあります。

字幕を変更できない。

- 再生しているDVDビデオに複数の字幕が記録されていない場合は、字幕は変更できません。
- DVDビデオによっては、字幕の変更を禁止しているものがあります。

字幕を消すことができない。

- DVDビデオによっては、ディスク側で字幕表示を消すことを禁止しているものがあります。そのような場合には、字幕を消すことはできません。

アングルを変更して視聴できない。

- 再生しているDVDビデオが、マルチアングルの機能を用意していない(36ページ)。
- DVDビデオによっては、ディスク側でアングルの切り換えを禁止しているものがあります。

ラジオ

雑音が入る(「TUNED」や「STEREO」が点滅する)、または放送が受信できない。

- 自動受信で受信状態が悪いときは、手動受信で周波数を合わせてください。
- 手動受信の場合は、AM、FMの選択、周波数が正しいか確認してください(57ページ)。
- アンテナが正しく接続されているか確認してください(27ページ)。
- 受信状態のよい場所や方向を探し、アンテナを設置し直してください。それでも受信状態が悪いときは、野外アンテナ(別売り)の使用をおすすめします。
- FMワイヤーアンテナは束ねたまま使わないでください。FM電波の受信感度は、アンテナ線の長さに左右されますので、しっかり広げて設置してください。

次のページにつづく

- ノイズを防ぐために、アンテナをスピーカーコードや電源コードから離してください。
- 本機の近くにある電化製品の電源を切ってください。

FM放送の受信でノイズが聞こえる、FM放送がステレオで受信できない。

- 「FMモード」を「モノラル」に切り換えてください（58ページ）。ステレオ受信ではありませんが、聞きやすくなります。

その他の機器

音が出ない。

- 88ページの「共通」の「スピーカーから音が出ない。」をご覧のうえ、本機の状態を確認してください。
- 映像出力コードや映像/音声入力コードが正しく接続されているか、プラグがしっかり差し込まれているかなど、本機とビデオデッキや衛星放送受信機の接続を確認してください（80ページ）。
- 接続している機器の電源を入れてください。
- 機器に付属の取扱説明書をご覧のうえ、必要であれば再生をスタートしてください。

「CD/DVD」ファンクション以外の設定をお買い上げ時の設定に戻すには

1 ホームメニューの「設定」を選び、決定ボタンを押す。

2 「リセット」を選び、決定ボタンを押す。
設定画面が表示されます。

3 「はい」を選び、決定ボタンを押す。
「設定」の各設定項目、オプションメニューの設定項目などがリセットされ、お買い上げ時の状態に戻ります。なお、リセットを行うと本機の電源が自動的に切れます。

4 電源ボタン（本体ではI/⏻ ボタン）を押し、本機の電源を入れる。

「CD/DVD」ファンクションの設定をお買い上げ時の設定に戻すには

1 ディスクの再生が停止していることを確認して、画面表示ボタンを押す。
コントロールメニュー画面が表示されます。

2 ↑/↓ボタンで（「設定」）を選び、決定ボタンを押す。

3 ↑/↓ボタンで「カスタム」を選び、決定ボタンを押す。
設定画面が表示されます。

4 ↑/↓ボタンで「システム設定」を選び、決定ボタンを押す。

5 ↑/↓ボタンで「リセット」を選び、決定ボタンを押す。

6 ←/→ボタンで「はい」を選び、決定ボタンを押す。
「視聴制限」の設定（51ページ）を除き、「設定」画面の設定項目のすべてがリセットされ、お買い上げ時の設定に戻ります。リセットしている間は、電源ボタン（本体では I/⏻ ボタン）を押さないでください。リセットが完了するのに数秒かかります。

ご注意

「ミュージック/フォト」、「スライドショーの速さ」、「スライドショーの効果」の設定もお買い上げ時の設定に戻ります。

自己診断機能を使う

本機を故障から守るために、本機には自己診断機能がついています。画面に「C 13 50」のような5文字のサービスナンバーが現れたときは、以下の項目を確認してください。

サービスナンバーの最初の 3 文字	原因と対処
C 13	ディスクが汚れている。 • 柔らかい布でディスクを拭く（82ページ）。
C 31	ディスクが正しく入っていない。 • 本機の電源を切り、再び電源を入れた後にディスクを正しく入れ直す。

オートスタンバイ機能を「オフ」にするには

本機にはオートスタンバイ機能がついています。このオートスタンバイ機能によって、無操作の時間が30分経過するか、CDの再生が停止するなど音源の再生が停止すると本機は自動的にスタンバイモードに移行します。
お買い上げ時の初期設定では有効になっていますが、ホームメニューの「設定」からオートスタンバイ機能を切ることができます。

その他

1 ホームメニューの「設定」を選び、決定ボタンを押す。

2 「オートスタンバイ」を選び、決定ボタンを押す。
設定画面が表示されます。

3 ↑/↓ボタンで「オフ」を選び、決定ボタンを押す。
オートスタンバイ機能を有効にしたいときは、「オン」を選んでください。

ご注意

- オートスタンバイ機能を有効にしていても、「ウォークマン」、「チューナー」、「外部入力」、「カレンダー /時計」のファンクションをお使いのときは無効となり、スタンバイモードへ移行しません。
- オートスタンバイ機能を有効にしていても、次の状態のときはスタンバイモードへ移行しません。
  – 曲を再生しているとき。
  – 再生タイマーまたはスリープタイマー開始のための処理が始まったとき。

ちょっと一言

スライドショーの再生で曲の再生が終わったときは、オートスタンバイ機能によって自動的にスタンバイモードに移行します。

メッセージ一覧

本機の使用中に、次のようなメッセージが表示、または点滅することがあります。

オフ時間が設定できません

再生タイマーの開始時刻と終了時刻が同じ時刻になっている。

過電流を検出しました

USB端子、メモリーカードスロット、または"ウォークマン"接続端子から過電流が検出された。詳しくは、"「過電流を検出しました」と表示される。"（89ページ）をご覧ください。

完了しました

FM/AM局のプリセット登録が正常に完了した。

このディスクは地域制限により再生を禁止されています

再生不可の地域番号（リージョンコード）のDVDビデオをセットした。

再生データがありません

- 再生可能なファイル、またはファイルの格納されたフォルダーがない。
- データDVDに再生可能なトラックがない。

再生できません

再生できないディスクをセットした。

しばらくお待ちください

初期化処理中。

接続エラーです

- USB機器が正常に認識されていない、または不明なデバイス（対応機種以外のUSB機器など）を接続した。
- メモリーカードが正常に認識されていない、または不明なデバイス（対応機種以外のメモリーカードなど）を接続した。

ディスクが入っていません

ディスクが入っていない。

データエラーです

USB機器、メモリーカードの再生対象のファイルが破損している。

データエラーです（データCD、データDVDの場合）

- 再生対象のファイル（MP3ファイルまたはJPEG画像ファイル）が破損している。
- オーディオファイルがMP3（MPEG1 Audio Layer-3）形式で作成されていない。
- JPEG画像ファイルがDCF規格に準拠していない。
- 拡張子は正しいが（「.mp3」）、オーディオファイルがMP3形式でない。
- 拡張子は正しいが（「.jpg」または「.jpeg」）、画像ファイルがJPEG形式でない。

デバイスが接続されていません

USB機器が接続されていない。

時計を設定してください

時計を設定していない状態で再生タイマーを設定しようとした。

ミュージックがありません

再生対象として選択したフォルダー内に、オーディオファイルがない。

無効な操作です

使用できないボタンを押した。

メモリーが挿入されていません

メモリーカードが挿入されていない。

読みこみ中

- ディスク、USB機器、またはメモリーカードの情報を読みこんでいる。
  データの読みこみ中は、いくつかのボタンは操作できなくなります。
- USB機器、メモリーカードの認識中。

保証書とアフターサービス

本機は日本国内専用です。電源電圧や放送規格の異なる海外ではお使いになれません。

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう1度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

ソニーの相談窓口やお買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社では本機の補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を、製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過したあとも、故障箇所によっては修理可能な場合がありますので、お買い上げ店またはソニーの相談窓口にご相談ください。

部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

主な仕様

アンプ部

実用最大出力

50W＋50W (8Ω、JEITA*)

* JEITA（電子情報技術産業協会）規格による測定値です。

入力端子

映像入力（VIDEO/SAT VIDEO IN）

出力レベル：1 Vp-p
インピーダンス：75Ω

音声入力（VIDEO/SAT AUDIO IN）

感度：250/450 mV
インピーダンス：47kΩ

USB端子（USBメモリー）：

タイプA、出力電流500mA（最大）

ウォークマン接続端子（WM-PORT）：

WM-PORT搭載"ウォークマン"接続用、DC 5V、出力電流500mA（最大）

メモリーカードスロット：

"メモリースティック"（62ページ）、SDメモリーカードに対応（63ページ）

出力端子

映像出力（DVD VIDEO OUT）

出力レベル：1 Vp-p
インピーダンス：75Ω

ヘッドホン端子（ ）

インピーダンス：8Ω以上

スピーカー端子（SPEAKERS）：

スピーカーは付属のスピーカー「SS-L7D」を接続してください。

CD/DVD部

レーザーの仕様

放射時間：連続
レーザー出力*：44.6μW未満

* この出力値は、7mmの開口部にて光学ピックアップブロックの対物レンズ面より200mmの距離で測定したものです。

周波数特性

DVDリニア音声 (PCM 48 kHz)：2Hz ～ 22kHz (±1 dB)
CD再生：2Hz ～ 20kHz (±0.5dB)

映像方式：

NTSC方式

チューナー部

回路方式：

AM/FMチューナー、スーパーヘテロダイン方式

受信周波数

FM：76.0 ～ 90.0MHz（100kHzステップ）
AM：531 ～ 1,602kHz（9kHzステップ）

アンテナ：

FM：ワイヤーアンテナ75Ω、不平衡型
AM：ループアンテナ

中間周波数

FM：10.7MHz
AM：450kHz

スピーカー（SS-L7D）

形式：
2ウェイバスレフ型

ユニット形状
ウーファー：100mmコーン型
トゥイーター：40mmコーン型

定格インピーダンス：
8Ω

最大外形寸法（幅×高さ×奥行き）：
約140mm×203mm×138mm

質量：
約1.3kg

本体（HCD-L7D）

電源：
AC100V、50/60Hz

消費電力：
70W（通常動作時（JEITA*））

最大外形寸法（幅×高さ×奥行き、最大突起部含む、スピーカー除く）：
約330mm×203mm×138mm

質量（スピーカー除く）：
約3.6kg

付属品：

リモコン（RM-AMU086J）（1）
単三形（R6）乾電池（2）
FMワイヤーアンテナ（1）
AMループアンテナ（1）
"ウォークマン"用アタッチメント（2）
取扱説明書（本書）（1）
ソニーご相談窓口のご案内（1）
保証書（1）
ユーザー登録カード（1）

対応ファイルフォーマット

オーディオ

MP3
拡張子：.mp3
ビットレート：32kbps ～ 320kbps, VBR
サンプリングレート：32kHz 、44.1kHz、48kHz
DRM：非対応

WMA[1)]
拡張子：.wma
ビットレート：48kbps ～ 192kbps
サンプリングレート：44.1kHz
DRM：非対応

AAC[1)]
拡張子：.m4a
ビットレート：48kbps ～ 320kbps
サンプリングレート：44.1kHz
DRM：非対応

ビデオ

MPEG4[1)]
ファイルフォーマット：MP4形式、AVI形式
拡張子：「.mp4」または「.avi」
対応プロファイル：MPEG4 Simple Profile、MPEG4 Advanced Simple Profile (AVC形式非対応)
ビットレート：1.5Mbps
フレームレート：30fps
解像度：720ピクセル（幅）×480ピクセル（高さ）
オーディオコーデック：AAC-LC (HE-AAC形式には非対応)、MP3形式
対応チャンネル数：2チャンネル（最大）
ビットレート：128kbps
サンプリングレート：44.1kHz
DRM：非対応

MPEG2/MPEG1[1)]

ファイルフォーマット：
MPEG2形式、MPEG1形式
拡張子：「.mpg」
ビットレート：1.5Mbps（オーディオストリーム形式含む）
フレームレート：30fps
解像度：720ピクセル（幅）×480ピクセル（高さ）
オーディオコーデック：MP1（MPEG1 Audio Layer-1）、MP2（MPEG1 Audio Layer-2）
対応チャンネル数：2チャンネル（最大）
ビットレート：128kbps
サンプリングレート：44.1kHz

Motion JPEG[1)]

ファイルフォーマット：AVI形式
拡張子：「.avi」
ビットレート：1.5Mbps
フレームレート：30fps
解像度：640ピクセル（幅）×480ピクセル（高さ）
オーディオコーデック：AAC-LC (HE-AAC形式には非対応)、MP3形式
対応チャンネル数：2チャンネル（最大）
ビットレート：128kbps
サンプリングレート：44.1kHz

画像

ファイルフォーマット：JPEG形式、インターレースまたはプログレッシブ方式、DCF準拠、24ビットRGBカラー
拡張子：「.jpg」または「.jpeg」
解像度[2)]：8ピクセル（幅）×8ピクセル（高さ）～ 3,071ピクセル（幅）×2,047ピクセル（高さ）

1) USB機器、"メモリースティック"、SDメモリーカードのみ対応。

2) プログレッシブJPEGの場合は、200万画素以下の解像度に対応。

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

その他

コントロールメニュー画面の見かた（CD/DVDファンクションのみ）

コントロールメニュー画面を使って、ファンクションを選んだり、設定を変更したり、関連する情報を表示するなどの設定ができます。⊡ 画面表示ボタンを繰り返し押すと、表示は次のように切り換わります。

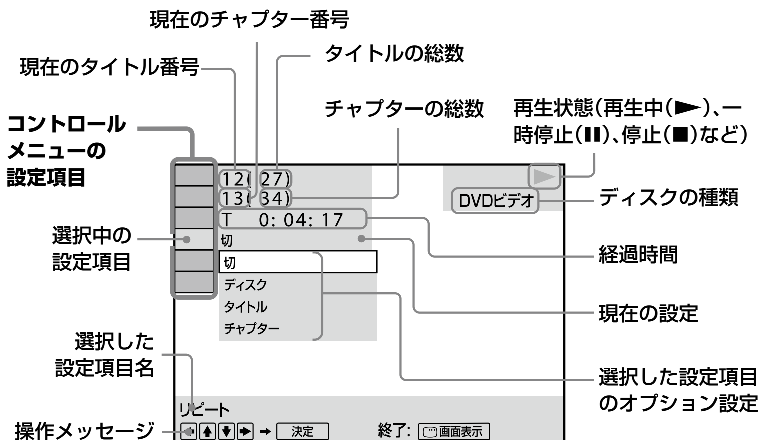
コントロールメニュー画面1 → コントロールメニュー画面2* → コントロールメニュー画面 切 → コントロールメニュー画面1 → …

* 設定項目が2画面目に続く場合のみ、コントロールメニュー画面2を表示できます。

コントロールメニュー画面表示

コントロールメニュー画面1とコントロールメニュー画面2に表示される設定項目は、再生するディスクの種類によって異なります。

例：DVDビデオ再生中のコントロールメニュー画面1



コントロールメニュー画面を消すには

表示が消えるまで⊡ 画面表示ボタンを繰り返し押してください。

コントロールメニュー画面項目一覧

項目	項目名、機能、対象ディスクの種類
	「タイトル」/「シーン」/「トラック」（40 ページ） 再生するタイトル、シーン、トラックを選びます。 DVD-V DVD-VR VIDEO CD
	「チャプター」/「インデックス」（40 ページ） 再生するチャプター、インデックスを選びます。 DVD-V DVD-VR VIDEO CD
	「トラック」（40 ページ） 再生するCD-DAトラック、MP3ファイルを選びます。 CD DATA CD DATA DVD
	「オリジナル」/「プレイリスト」（40 ページ） 再生するタイトルの種類を選びます。ディスクのオリジナルのタイトル、あるいは編集して作成されたプレイリストを選ぶことができます。 DVD-VR
	「時間」（41 ページ） 経過時間および残り時間を調べます。 タイムコードを入力して映像や曲を探します（DVDビデオ、DVD-VRのみ）。 DVD-V DVD-VR VIDEO CD CD DATA CD DATA DVD
	「プログラム」（46 ページ） 曲をプログラム登録して、好きな順に再生します。 VIDEO CD CD
	「シャッフル」（48 ページ） CD-DAトラックやMP3ファイルをランダム（無作為）な順番で再生します。 VIDEO CD CD DATA CD DATA DVD
	「リピート」（49 ページ） ディスク全体(全タイトル/全トラック/全ファイル/全フォルダー（アルバム））、またはひとつのタイトル/チャプター/トラック/ファイル/フォルダー（アルバム）を繰り返し再生します。 DVD-V DVD-VR VIDEO CD CD DATA CD DATA DVD

その他

次のページにつづく

項目	項目名、機能、対象ディスクの種類
	「A/V SYNC」(50 ページ) 映像と音声の同期のずれを調整します。 DVD-V DVD-VR VIDEO CD
	「設定」(31、53 ページ) **「クイック」セットアップ** つないだテレビに合う画面の縦横比の選択を行います。 **「カスタム」セットアップ** クイックセットアップに加えて、さまざまな設定をします。 DVD-V DVD-VR VIDEO CD CD DATA CD DATA DVD
	「フォルダー」(40 ページ) 再生するフォルダー(アルバム)を選びます。 DATA CD DATA DVD
	「ファイル」(40 ページ) 再生するJPEG画像ファイルを選びます。 DATA CD DATA DVD
	「日付」(77 ページ) デジタルカメラで撮影したJPEG 画像ファイルの撮影日を表示します。 DATA CD DATA DVD
	「スライドショーの速さ」(45 ページ) スライドーショーでの画像の表示間隔(スライドショーの速さ)を選びます。 DATA CD DATA DVD
	「スライドショーの効果」(45 ページ) スライドショーで画像の表示が変わるときの効果を選びます。 DATA CD DATA DVD
	「ミュージック / フォト」(46、109 ページ) 異なるタイプのファイル(MP3ファイル、JPEG画像ファイル)が同じディスクに記録されているときに、どのタイプのファイルを再生するかを選びます。 DATA CD DATA DVD

ファイルタイプの優先設定をする

データCDやデータDVDに記録されたファイルは、コントロールメニューの「ミュージック/フォト」の設定項目の選択に応じて、優先して再生されるファイルのタイプが変わります。

ディスクに記録されているファイルの種類	選択されている「ミュージック / フォト」の設定		
	「ミュージック＆フォト」	「ミュージック」	「フォト」
JPEG画像ファイルのみ	JPEG画像ファイルを再生	JPEG画像ファイルを再生	JPEG画像ファイルを再生
MP3ファイルのみ	MP3ファイルを再生	MP3ファイルを再生	MP3ファイルを再生
MP3ファイルとJPEG画像ファイル	MP3ファイルとJPEG画像ファイルでの音声つきスライドショー	MP3ファイルを再生	JPEG画像ファイルを再生

言語コード一覧表

言語名表記は、ISO639:1988（E/F）に準拠しています。

コード	言語	コード	言語	コード	言語	コード	言語
1027	Afar	1186	Scots Gaelic	1350	Malayalam	1513	Siswati
1028	Abkhazian	1194	Galician	1352	Mongolian	1514	Sesotho
1032	Afrikaans	1196	Guarani	1353	Moldavian	1515	Sundanese
1039	Amharic	1203	Gujarati	1356	Marathi	1516	Swedish
1044	Arabic	1209	Hausa	1357	Malay	1517	Swahili
1045	Assamese	1217	Hindi	1358	Maltese	1521	Tamil
1051	Aymara	1226	Croatian	1363	Burmese	1525	Telugu
1052	Azerbaijani	1229	Hungarian	1365	Nauru	1527	Tajik
1053	Bashkir	1233	Armenian	1369	Nepali	1528	Thai
1057	Byelorussian	1235	Interlingua	1376	Dutch	1529	Tigrinya
1059	Bulgarian	1239	Interlingue	1379	Norwegian	1531	Turkmen
1060	Bihari	1245	Inupiak	1393	Occitan	1532	Tagalog
1061	Bislama	1248	Indonesian	1403	(Afan) Oromo	1534	Setswana
1066	Bengali; Bangla	1253	Icelandic	1408	Oriya	1535	Tonga
1067	Tibetan	1254	Italian	1417	Punjabi	1538	Turkish
1070	Breton	1257	Hebrew	1428	Polish	1539	Tsonga
1079	Catalan	1261	Japanese	1435	Pashto; Pushto	1540	Tatar
1093	Corsican	1269	Yiddish	1436	Portuguese	1543	Twi
1097	Czech	1283	Javanese	1463	Quechua	1557	Ukrainian
1103	Welsh	1287	Georgian	1481	Rhaeto-Romance	1564	Urdu
1105	Danish	1297	Kazakh	1482	Kirundi	1572	Uzbek
1109	German	1298	Greenlandic	1483	Romanian	1581	Vietnamese
1130	Bhutani	1299	Cambodian	1489	Russian	1587	Volapük
1142	Greek	1300	Kannada	1491	Kinyarwanda	1613	Wolof
1144	English	1301	Korean	1495	Sanskrit	1632	Xhosa
1145	Esperanto	1305	Kashmiri	1498	Sindhi	1665	Yoruba
1149	Spanish	1307	Kurdish	1501	Sangho	1684	Chinese
1150	Estonian	1311	Kirghiz	1502	Serbo-Croatian	1697	Zulu
1151	Basque	1313	Latin	1503	Singhalese	1703	無指定
1157	Persian	1326	Lingala	1505	Slovak		
1165	Finnish	1327	Laothian	1506	Slovenian		
1166	Fiji	1332	Lithuanian	1507	Samoan		
1171	Faroese	1334	Latvian; Lettish	1508	Shona		
1174	French	1345	Malagasy	1509	Somali		
1181	Frisian	1347	Maori	1511	Albanian		
1183	Irish	1349	Macedonian	1512	Serbian		

視聴制限地域コード

コード番号	使用する地域	コード番号	使用する地域
2044	アルゼンチン	2090	チリ
2184	イギリス	2115	デンマーク
2254	イタリア	2109	ドイツ
2248	インド	2276	日本
2238	インドネシア	2390	ニュージーランド
2047	オーストラリア	2379	ノルウェー
2046	オーストリア	2427	パキスタン
2376	オランダ	2424	フィリピン
2079	カナダ	2165	フィンランド
2304	韓国	2070	ブラジル
2501	シンガポール	2174	フランス
2086	スイス	2057	ベルギー
2499	スウェーデン	2436	ポルトガル
2149	スペイン	2363	マレーシア
2528	タイ	2362	メキシコ
2092	中国	2489	ロシア

用語解説

DVD-RW

「DVDフォーラム」が策定したDVD規格のひとつ。DVD-RWディスクは、データの記録、書き換えが可能で、記録方式には、「ビデオモード」と「VRモード」の2つがある。ビデオモードで作成されたDVD-RWは、DVDビデオと同じフォーマットなのに対して、VRモードでは、プログラムや編集機能に対応する記録方式となっている。

DVD+RW

「DVD+RWアライアンス」が策定したDVD規格のひとつ。DVD＋RWディスクも、データの記録、書き換えが可能。記録容量などの仕様はDVD-RWと同じだが、両規格間での互換性はない。記録方式は、DVD-RWと同じくDVDビデオと同じフォーマットとなるビデオモード、DVD-RWのVRモードに相当する「＋VRモード」がある。

DVDビデオ

市販のDVDビデオで採用されているDVD規格、または同規格に準拠して作成されたDVDビデオのこと。CDと同じ直径で、最大8時間までのデータを記録できるようになっており、片面1層タイプで4.7GB（ギガバイト）、片面2層タイプで8.5GB、両面1層では9.4GB、両面2層では17GBのデータを記録できる。
映像データは、デジタル圧縮技術の世界標準規格のひとつである「MPEG2」を採用し、非圧縮のオリジナルデータに対して、約40分の1（平均）に圧縮して記録する。また、映像の状態（動きが多いか少ないかなど）に合わせて情報量を変化させる、可変ビットレート形式の符号化技術も採用されている。音声データは、PCMのほか、ドルビーデジタルの形式で記録でき、より臨場感のある音声が楽しめる。このほか、DVDビデオにはマルチアングル、マルチランゲージ、視聴制限（ペアレンタルコントロール）といった、さまざまな付加機能を持たせることができるようになっている。

シーン

ビデオCD（バージョン2.0）のデータの区切りのこと。メニュー画面用のデータ、映像データ、静止画像データなどがこれにあたる。

視聴制限（ペアレンタルコントロール）

国ごとの規制レベルに合わせて、DVDビデオの映像の再生を制限する、というDVDビデオの機能。制限のしかたはDVDビデオによって異なり、全く再生できない場合や過激な場面をとばしたり、別の場面に差し換えて再生する場合などがある。

タイトル

DVDビデオの映像データや音声データの区切りのこと。「チャプター」よりも大きな単位で、例えば、DVDビデオの本編と特典映像、音声言語データなどがこれにあたる。

地域番号（リージョンコード）

DVDビデオの再生可能地域を限定するコードのこと。DVDビデオと再生機器には地域番号が割り当てられており、再生機器側は本体後面など本体に、DVDビデオは、ディスクのパッケージなどに表示されている。地域番号が双方で一致していないとDVDビデオは再生できない。ただし、表示のあるDVDビデオは、一般に「リージョンフリー」と呼ばれているディスクで、どの再生機器でも再生できる。なお、地域番号の表示がないDVDビデオでも、地域制限コードが設定されている場合がある。

チャプター

DVDビデオに記録されている映像データや音声データの区切りのこと。「タイトル」よりも小さい単位で、ひとつのタイトルは複数のチャプターで構成されることが多い。ただし、チャプターが記録されていないディスクもある。

トラック

ビデオCDやCDなど、ディスクに記録されたデータの種類からの区分として、「トラック」という表現が使われる。例えば、「映像トラック」「音声トラック」などがこれにあたる。

ドルビーデジタル

ドルビーラボラトリーズ社の開発した音声のデジタル圧縮技術。5.1チャンネル・サラウンドに対応している。サラウンドチャンネルはステレオ出力、サブウーファーチャンネルは独立して出力される。ドルビーデジタルシネマ音声方式のような、高水準のデジタル音声を5.1チャンネルで楽しむことができる。

ビデオCD

ビデオCDでは、デジタル圧縮技術の世界標準規格のひとつである「MPEG1」の動画圧縮技術を使うことにより、映像データを平均約140分の1に圧縮している。これにより、12cmのディスクに最大74分までのデータを記録できる。
また、音声データについても人間が聴こえる領域（可聴域）を超える周波数を圧縮して情報量を減らして記録することで、従来の音楽用CDと比較すると、データ量を約6分の1に圧縮している。
ビデオCDの規格には、動画や音声の再生だけが可能なバージョン1.1と、高精細の静止画の再生やPBC機能を持ったバージョン2.0がある（本機は、両規格のビデオCDの再生に対応）。

ファイル

「ファイル」とは、記憶装置に記録されたデータのまとまりのこと。本機では、データCDやデータDVD、USB機器、メモリーカードに記録されたオーディオファイルや画像ファイル、ビデオファイルを指す。

次のページにつづく

フォルダー

「フォルダー」とは、ファイルを整理、分類して格納するための場所のこと。本機では、データCDやデータDVD、USB機器、メモリーカードに記録されたオーディオファイルや画像ファイル、ビデオファイルを格納しているフォルダーを指す。

プレイバックコントロール機能（PBC）

ビデオCD（バージョン2.0）の規格に定義されている、再生をコントロールするための機能。PBC対応のビデオCDでは、簡易メニューが用意され、メニュー操作を主体とする対話型の操作で再生するコンテンツの選択ができるようになっている。ただし、コンテンツ製作時の仕様設計しだいでデザインや機能はさまざまとなる。ビデオCDによっては、検索機能を持たせた操作性を実現するものなどもある。

マルチアングル

DVDビデオの規格で定義されている仕様のひとつ。視点を変えた複数のアングル（カメラの位置）で撮影されたデータをDVDビデオに収録し、同じシーンをユーザーが視点を変えて鑑賞できるようにする機能のこと。対応するDVDビデオで利用できる。

マルチセッション

ディスクに複数のセッションで記録すること。「セッション」とは、一回のデータの書き込み単位のこと。セッションは、「リードイン（書き込み開始情報）」と実データ、「リードアウト（書き込み終了情報）」でひとつの単位となる。
マルチセッション方式は、CD-EXTRAなどの市販のディスクでも採用されているが、主にCD-RやDVD-Rなどを使ってデータを追記（一度書き込みを行ったあとに、追加でデータを書き込むこと）する目的で使われることが多い。そのため、コンピュータ用のソフトウェアには「Track at Once」という追記のための設定が設けられており、そうした設定で作成されたディスクは「マルチセッションディスク」と呼ばれている。

マルチランゲージ

DVDビデオの規格で定義されている仕様のひとつ。DVDビデオの大容量という特性を活かして、音声や字幕のデータを複数言語で記録できる仕様になっている。選択できる言語は、DVDビデオによって異なる。

索引

あ行

か行

さ行

た行

は行

その他

次のページにつづく

ま行

ら行

A-Z、0-9

ライセンスと商標について

- 本機は、ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。
- "DVD VIDEO"、"DVD-RW"、"DVD-R"、"DVD+RW"、"DVD+R"、"CD"ロゴは商標です。
- 本機はFraunhofer IISおよびThomsonのMPEG Layer-3オーディオコーディング技術と特許に基づく許諾製品です。
- "ウォークマン"、"WALKMAN"、"WALKMAN"ロゴは、ソニー株式会社の登録商標です。
- MEMORY STICK、"メモリースティック"、"Memory Stick"、"MEMORY STICK"、"メモリースティック デュオ"、"Memory Stick Duo"、"MEMORY STICK DUO"、"マジックゲート メモリースティック"、"MagicGate Memory Stick"、"メモリースティック PRO"、"Memory Stick PRO"、"MEMORY STICK PRO"、"メモリースティック PRO デュオ"、"Memory Stick PRO Duo"、"MEMORY STICK PRO DUO"、"メモリースティック PRO-HG デュオ"、"Memory Stick PRO-HG Duo"、"MEMORY STICK PRO-HG DUO"、"メモリースティック マイクロ"、"Memory Stick Micro"、"MEMORY STICK MICRO"、"M2"、"メモリースティック-ROM"、"Memory Stick-ROM"、"MEMORY STICK-ROM"、"マジックゲート"、"MagicGate"、"MAGICGATE"はソニー株式会社の商標または登録商標です。
- SDHCロゴはSD-3C, LLCの商標です。
- Windows Media は米国および／またはその他の国における米国Microsoft Corporationの登録商標または商標です。
- 本製品は米国Microsoft Corporation が保有する知的財産権によって保護されています。米国Microsoft Corporation またはその公認子会社の許可なく、この技術を本製品以外で使用または頒布することは禁じられています。
- 本製品は、MPEG LA, LLC.がライセンス活動を行っているMPEG-4 VISUAL PATENT PORTFOLIO LICENSEの下、次の用途に限りライセンスされています：

  (i) 消費者が個人的、非営利の使用目的で、MPEG-4 Visual規格に合致したビデオ信号（以下、MPEG 4 VIDEOといいます）にエンコードすること。
  (ii) MPEG-4 VIDEO（消費者が個人的に非営利目的でエンコードしたもの、若しくはMPEG LAよりライセンスを取得したプロバイダーがエンコードしたものに限られます）をデコードすること。
  なお、その他の用途に関してはライセンスされていません。プロモーション、商業的に利用することに関する詳細な情報につきましては、MPEG LA, LLC.のホームページ（http://www.mpegla.com/）をご参照下さい。
- 本製品の日本語表示には、株式会社リコー所有の文字フォントを使用しています。
- その他、本書に記載されているシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中では™、®マークは省略している場合があります。

その他